YAMAHA

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。



取扱説明書

MT-10 SP

MTN1000D

BW8-28199-J0■

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- YRC（ヤマハライドコントロール） 3-1
- 用語集 3-2
- クルーズコントロールシステム 3-3

各部の取り扱いと操作 4-1
- キーの取り扱い 4-1
- イモビライザーシステム 4-2
- メインスイッチ 4-2
- ハンドルスイッチ 4-3
- 警告灯と表示灯 4-6
- ディスプレイ 4-9
- メニュー画面 4-13
- シフトペダル 4-26
- ABS 4-27
- フューエルタンクキャップ 4-28
- 燃料 4-29
- シート 4-29
- ヘルメットホルダー 4-30
- 書類入れ 4-30
- フロントフォークの調整 4-30
- リヤクッションの調整 4-32
- 荷掛けフック 4-33
- ブレーキレバーの握り調整 4-33
- DC ジャック 4-34
- サイドスタンド 4-34
- イグニッションサーキットカットオフシステム 4-35

日常点検 5-1
- 日常点検の実施 5-1
- 日常点検箇所／点検内容 5-1

運転操作 6-1
- エンジン始動 6-1
- ギヤチェンジのしかた 6-2
- ブレーキ 6-2
- ならし運転 6-3
- 駐車 6-3

点検整備 7-1
- 点検整備の実施 7-1
- サービスツール 7-2
- エンジンオイル 7-2
- エンジンのかかり具合、異音の点検 7-3
- 低速、加速の状態の点検 7-4
- 冷却水 7-4
- エアクリーナーエレメントの交換 7-5
- タイヤ 7-6
- クラッチ 7-7
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 7-8
- ブレーキランプスイッチの点検 7-8
- ブレーキパッドの点検 7-9
- ブレーキ液量の点検 7-9
- ドライブチェーン 7-10
- ドライブチェーンの給油 7-11
- バックミラー 7-11
- 車体各部の給油脂状態の点検 7-12
- アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 7-12
- バッテリー 7-13
- ヒューズの交換 7-14
- 灯火装置および方向指示灯の点検 7-17
- 運行において異常が認められた箇所の点検 7-17

お車の手入れ 8-1
- 洗車 8-1
- アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い 8-2
- 保管のしかた 8-3
- アフターケア用品について 8-3

製品仕様 9-1

ユーザー情報 10-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

サービスマニュアル（別売）の
紹介.....10-2
車両情報.....10-2

索引..... 11-1

JAU27281

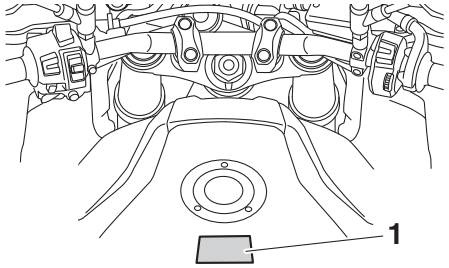
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737A

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
● 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

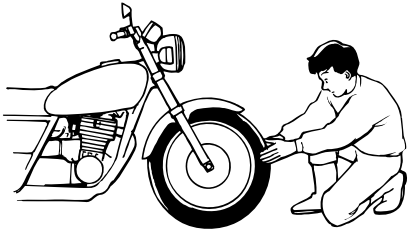
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

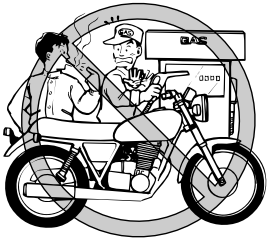
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受

けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

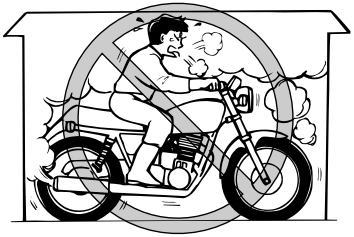
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



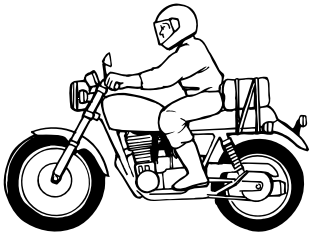
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



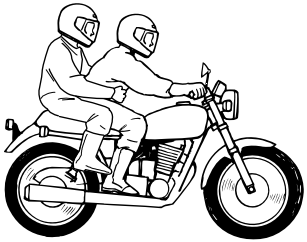
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている

高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



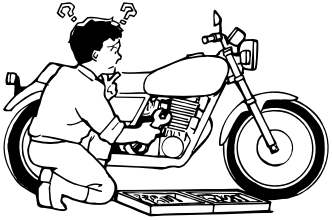
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm^3 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



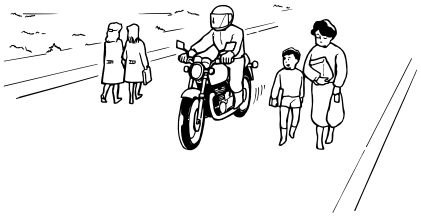
1

JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



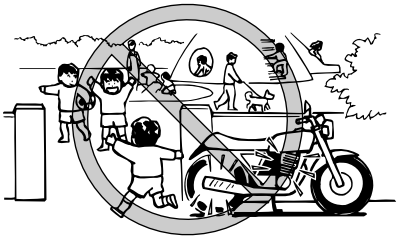
駐車

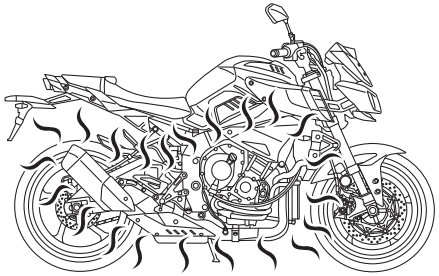
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

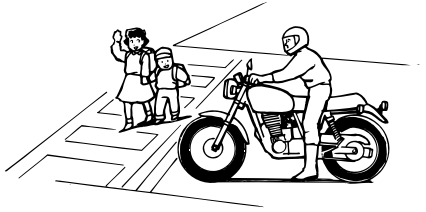
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

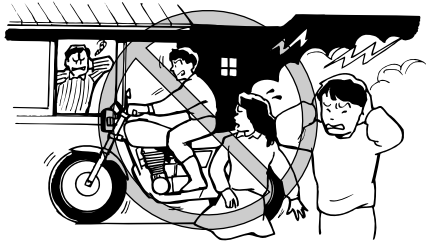
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

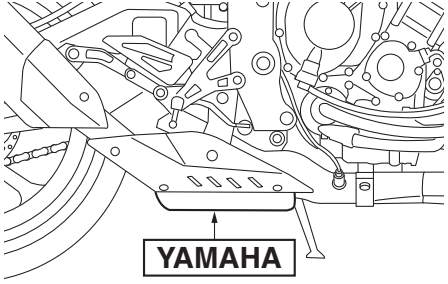


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



環境への配慮

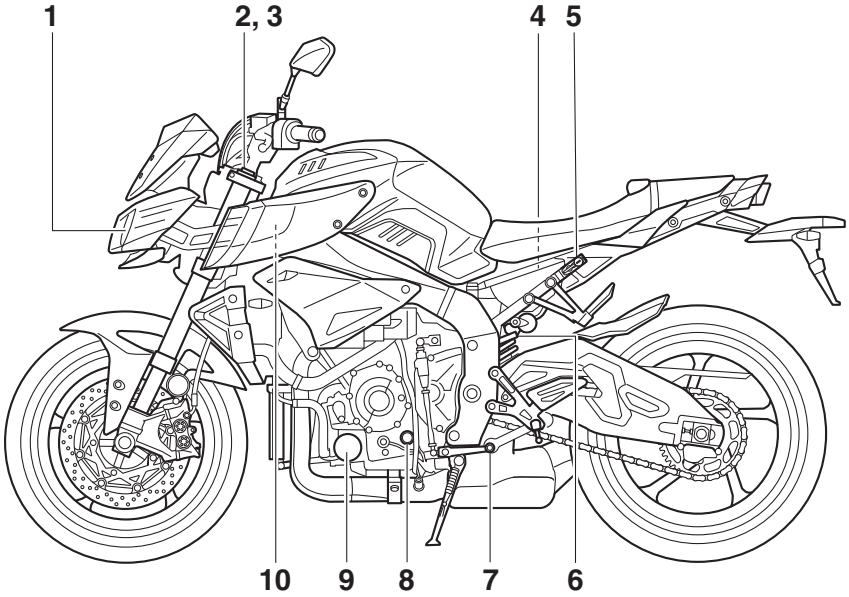
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

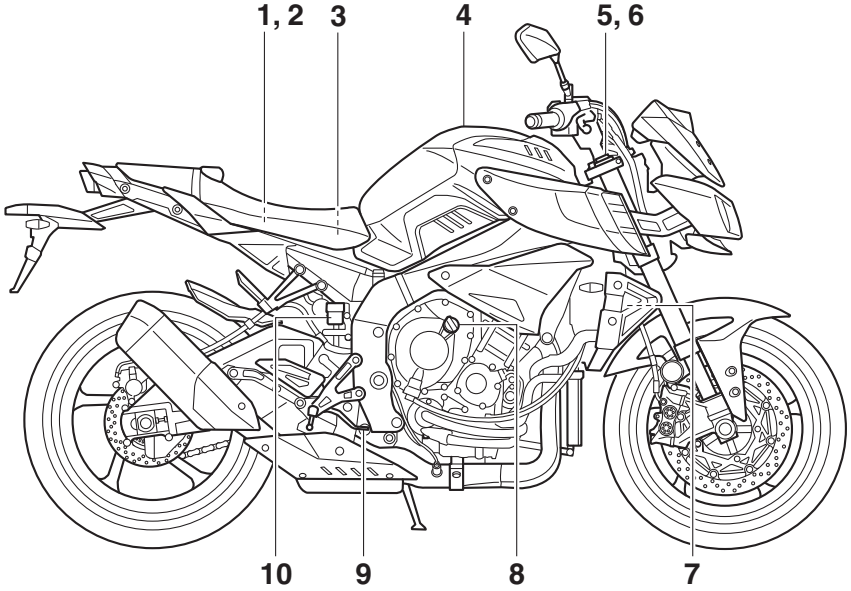
2



1. ヘッドライト
2. ERS カプラー (P4-30)
3. スプリングプリロードアジャスター
4. バッテリー（P7-13）
5. ヘルメットホルダー（P4-30）
6. スプリングプリロードアジャスター (P4-32)
7. シフトペダル（P4-26/6-2）
8. エンジンオイル点検窓（P7-2）
9. オイルフィルターエレメント
10. ヒューズボックス（P7-14）

JAU10421

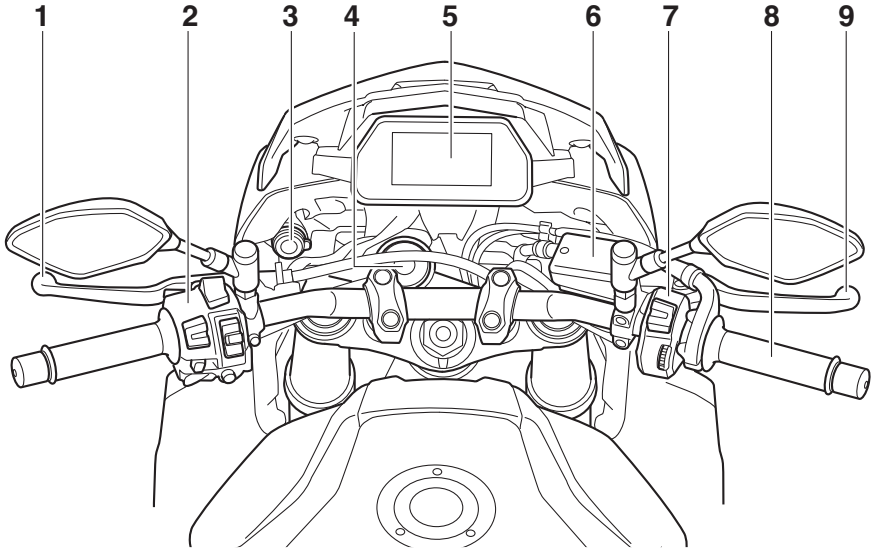
右側面



1. メインヒューズ（P7-14）
2. ABS モーターヒューズ (P7-14)
3. サービスツール（P7-2）
4. フューエルタンクキャップ（P4-28）
5. ERS カプラー (P4-30)
6. スプリングプリロードアジャスター
7. リカバリータンク（P 7-4）
8. オイル注入口（P7-2）
9. ブレーキペダル（P7-8）
10. リヤブレーキリザーバータンク（P7-9）

JAU10431

運転装置と計器類



1. クラッチレバー（P7-7）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-3）
3. DC ジャック (P 4-34)
4. メインスイッチ / ハンドルロック（P4-2）
5. インストルメントパネル (P4-6/4-9)
6. フロントブレーキリザーバータンク（P7-9）
7. ハンドルスイッチ（右）（P4-3）
8. スロットルグリップ
9. ブレーキレバー（P7-8）

JAU78262

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。下記の個々の YRC 項目について、ON/OFF を切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。(4-13 ページ参照)

JWA18910

⚠警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

PWR（パワーデリバリーモード）

PWR は、スロットルグリップの操作角度に応じてスロットルバルブの開度を調整する、3 つの制御マップからなります。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。

TCS（トラクションコントロールシステム）

TCS は、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、TCS はスリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。このとき、TCS 表示灯が点滅し、ライダーに TCS が有効になったことを知らせます。

JWA15432

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(7-6 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

要 点

車両が泥や砂、その他のやわらかい路面にはまった際は、TCS を OFF にして、後輪の回転制御を停止します。

特定の状況下では、TCS は自動的に無効になります。この場合、表示灯 “TCS” と警告灯 “🔧” が点灯します。

TCS のリセット

次の場合、TCS は自動的に無効になります。

- 前輪もしくは後輪が、走行中に路面から離れた場合
- 走行中に、後輪の過度な空転が検知された場合
- 整備中など、キーが “ON” の状態で、前後どちらかの車輪が回転した場合

TCS が無効になると、表示灯 “TCS” と警告灯 “🔧” の両方が点灯します。

この場合、次の手順でリセットしてください。

1. 停車し、キーを “OFF” にします。
2. 数秒後、キーを再び “ON” にします。
3. 表示灯 “TCS” が消灯し、システムが有

効になります。

要　点

このリセット操作をしても表示灯 “TCS” が点灯したままのときは、乗車は可能ですが、速やかにヤマハ販売店で点検を受けてください。

4. ヤマハ販売店で点検を受け、警告灯 “” を消灯してもらいます。

QSS（クイックシフトシステム）

QSS は一定条件の加速時において、電子制御により、クラッチ操作なしでのシフトアップを可能にしています。シフトロッド部にあるスイッチがシフトレバーの動きを検知すると、エンジン出力が調整されて加速トルクが一時的に遮断され、変速が可能になります。

要　点

- QSS は、20 km/h 以上、2000 r/min 以上で走行中、かつ加速時にのみ使用可能です。
- QSS は、クラッチレバーが握られているときは機能しません。

ERS（電子レーシングサスペンション）

Öhlins 製の ERS は、電子制御によるサスペンションの減衰力調整を特徴としています。このシステムは SCU（サスペンション制御ユニット）により、前後サスペンションの伸圧の減衰力を個々に調整できます。また、オートマチックとマニュアルの2つのモードがあります。オートマチックモードは、走行状況に応じ、減衰力を自動的に調整するモードです。マニュアルモードは、詳細設定が可能な従来仕様のモードです。

JAU78271

用語集

ABS - アンチロックブレーキシステム
ABS ECU - アンチロックブレーキシステム電子制御ユニット
ECU - エンジン制御ユニット
ERS - 電子レーシングサスペンション
PWR - パワーデリバリーモード
QS - クイックシフト
QSS - クイックシフトシステム
SCU - サスペンション制御ユニット
TCS - トラクションコントロールシステム
YRC - ヤマハライドコントロール

JAU80610

クルーズコントロールシステム

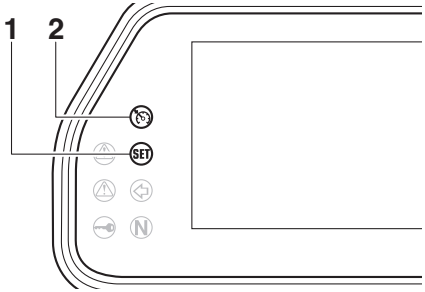
この車は、一定の速度を維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。

クルーズコントロールシステムは、約 50 km/h ～ 100 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

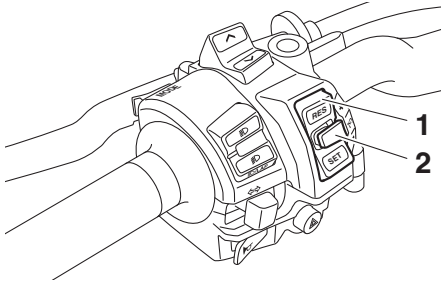
JWA16341

⚠警 告

- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯 “” が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯 “”



1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+/SET–”
2. クルーズコントロール電源スイッチ “”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. クルーズコントロール電源スイッチ “” を押します。クルーズコントロールシステム表示灯 “” が点灯します。
2. クルーズコントロール設定スイッチの “SET–” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET–” 側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要 点

設定スイッチを 1 度押すごとに、設定スピードが約 2.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側または “SET–” 側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、スピードが連続的に増加または減少します。

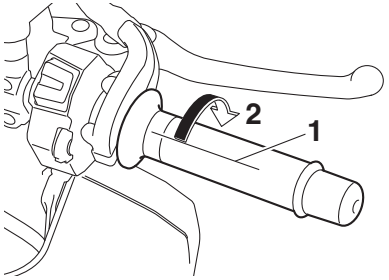
走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの “SET–” 側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしな

い場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 全閉位置
2. クルーズコントロールを取り消す方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。

電源スイッチを押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” およびクルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押します。走行スピードが前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

JWA16351

⚠警 告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要　点

システムの作動中に電源スイッチを押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- スターター／エンジンストップスイッチを “ ” にした場合。
- エンジンがストールした場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” は 4 秒間点滅してから消灯します。

設定したクルージングスピードで走行して

いない場合は、スターター／エンジンストップスイッチを “⊠” 位置に設定すると、エンジンがストールするほか、サイドスタンドが下げられると、クルーズコントロールシステム表示灯 “” が消灯します（クルーズコントロール設定表示灯 “SET” は点滅しません）。
クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。
クルーズコントロールシステムは、電源スイッチを使用して作動させてから再度使用してください。

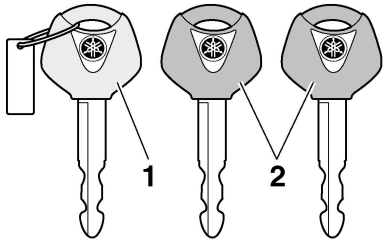
要　点

- 上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。
- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調整することはできません。

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。
- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

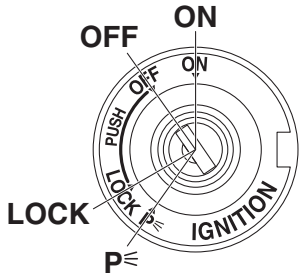
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 4-7 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要　点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU10552

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要　点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

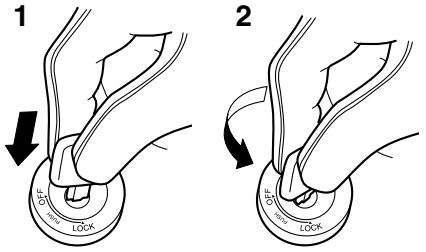
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU1068B

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



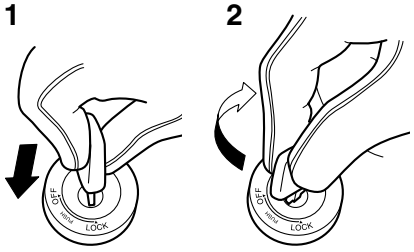
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU65680

P≦ （パーキング）

ハザードランプを点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。キーを抜くことができます。

キーを P≦ にする前に、ハンドルをロックしてください。

JCA22330

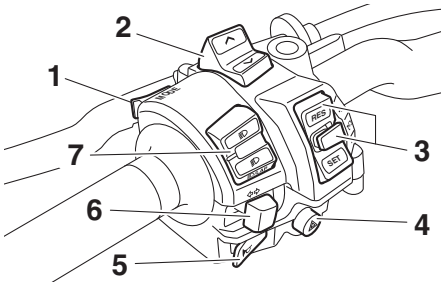
注 意

ハザードランプの長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になります。

JAU66054

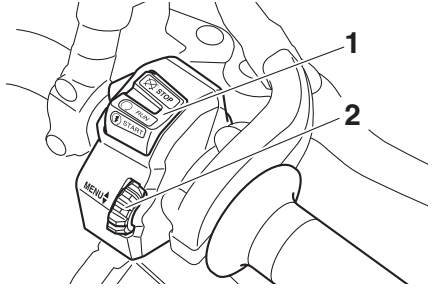
ハンドルスイッチ

<左>



1. モードスイッチ “MODE”
2. セレクトスイッチ “∧/∨”
3. クルーズコントロールスイッチ
4. ハザードスイッチ “⚠”
5. ホーンスイッチ “📯”
6. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
7. ヘッドライトスイッチ “≡O/≡O” ・ “≡O/LAP”

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “⊠/∩/㊋”
2. ホイールスイッチ “MENU▲▼”

JAU78400

ヘッドライト・Pass/LAP　スイッチ “≣D/≣D” ・ “≣D/LAP”

このスイッチで、ヘッドライトの “≣D”（上向き）、“≣D”（下向き）の切り替えを行います。

要　点

- ≣D（下向き）のときは、左側の 1 灯だけが点灯します。
- ≣D（上向き）にしたときや、≣D（下向き）の状態からスイッチを下方向（≣D/LAP 側）に押したときは、左右両方のライトが点灯します。
- 先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

また、ラップタイマー使用時に（≣D/LAP 側）を押すと、各ラップの開始を記録します。

JAU66040

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU66030

ホーンスイッチ “🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU66060

スターター／エンジンストップスイッチ “㊋/∩/⊠”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “∩” に合わせてから、スイッチを “㊋” まで押してください。

JCA11882

注 意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊠” にします。通常は “∩” にしておきます。

JWA17700

⚠警 告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

4

JCA20770

注 意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “⏀” → “⊗” → “⏀” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。**

要 点

“⊗” にすると、エンジンは始動できません。

JAU66010

ハザードスイッチ “⚠”

メインスイッチを ON または ⚲ にした状態で、スイッチを “⚠” にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU73951

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの説明については、3-3 ページを参照してください。

JAU78391

セレクトスイッチ “∧/∨”

このスイッチは、YRC の各モードの切り替えや、PWR、TCS、ERS の各設定変更に使用します。（4-11 ページ参照）

JAU78382

モードスイッチ “MODE”

モードスイッチを用いて、YRC の各モードを切り替えたり、PWR、TCS、ERS の各設定変更をメイン画面で行うことができます。

要 点

- トラクションコントロールシステムは、メイン画面からのみ OFF にすることができます。TCS を選択し、セレクトスイッチ “∧” を TCS OFF が表示されるまで押し続けます。もう一度 ON にするには、セレクトスイッチ “∨” を押します。
- TCS を OFF にすると、A ～ D 全ての YRC モードでの TCS が OFF になります。
- YRC モードのカスタマイズや YRC 項目の設定値の調整についての詳細は、4-15 ページの “YRC セッティング” 項目をご参照ください。

JAU66100

ホイールスイッチ “MENU▲▼”

メイン画面が STREET MODE にセットされているときは、ホイールスイッチでスクロールをしたり、表示項目のリセット操作を行ったりできます。

メイン画面が TRACK MODE にセットされているときは、ホイールスイッチで表示項目のリセット操作を行ったり、ラップタイマーを有効化することができます。

表示がメニュー画面のときは、ホイールスイッチで設定項目を移動させたり、設定の変更を行ったりできます。

ホイールスイッチは、次のとおり操作します。

上に回す - ホイールを上方向に回すと、上もしくは左方向に移動させたり、設定の値を増加させたりできます。

下に回す - ホイールを下方向に回すと、下もしくは右方向に移動させたり、設定の値を減少させたりできます。

短押し - 短くスイッチを押し込むと、選択した内容を確定できます。

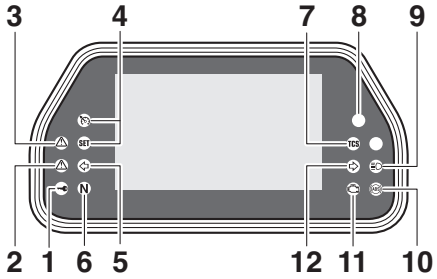
長押し - 1 秒以上スイッチを押し込むと、表示項目をリセットし、メニュー画面へ戻ることができます。

要　点

- メイン画面と機能についての詳細は、4-9 ページをご参照ください。
- メニュー画面と設定の変更についての詳細は、4-13 ページをご参照ください。

JAU4939C

警告灯と表示灯



1. イモビライザーシステム表示灯 “ ”
2. ステアリングダンパー・サスペンション警告灯 “ ”
3. 油圧・水温警告灯 “ ”
4. クルーズコントロール表示灯 “ ” ／ “SET”
5. 方向指示器表示灯（左） “ ”
6. ニュートラルランプ “**N**”
7. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
8. シフトタイミングインジケーター
9. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
10. ABS 警告灯 “ ”
11. エンジン警告灯 “ ”
12. 方向指示器表示灯（右） “ ”

JAU11032

方向指示器表示灯 “ ” / “ ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU74072

クルーズコントロール表示灯 “ ” / “SET”

これらの表示灯は、クローズコントロールシステムが有効になると点灯します。（3-3 ページ参照）

要　点

車両の電源が ON になると、これらの表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU79310

エンジン警告灯 “ ”

エンジンに異常が発見されると、この警告灯が点灯します。この場合、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

車両の電源を ON にすると、警告灯の電気回路の点検が行われます。警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。

警告灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU69891

ABS 警告灯 “(ABS)”

走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。このような場合、直ちにヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。(4-27 ページ参照)

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. スターター／エンジンストップスイッチを “ON” にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が点灯し、10 km/h 以上の速度で走行したあと消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないか、点灯したまま消灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JWA16041

⚠ 警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

JAU74081

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、解除されると点灯します。

要 点

- メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- メインスイッチをONにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU67431

シフトタイミングインジケーターランプ

設定された回転数になると点灯または消灯し、シフトアップのタイミングをお知らせします。(詳しくは 4-20 ページを参照してください。)

車両の電源を ON にすると、インジケーターランプの電気回路の診断が行われます。インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。

ONにしたときにインジケーターランプが一時的に点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU73120

イモビライザーシステム表示灯 “🔑”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを “OFF” にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

表示灯の回路点検のため、メインスイッチを “ON” にすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。

点灯しないときや点灯したままになっているとき、または通常とは異なる周期で点滅するときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。他のイモビライザーシステムのキーがあると、ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU78410

油圧・水温警告灯 “⚠”

エンジン油圧が低い、もしくはエンジン冷却水温が高いときに、この警告灯が点灯します。この場合、エンジンをすぐに停止してください。

メインスイッチを “ON” にしたときに、警告灯の電気回路の点検が行われます。警告灯が消灯した後に再度点灯し、エンジンが始動するまで点灯したままになります。メインスイッチを “ON” にしても警告灯が点灯しない場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JCA22441

注 意

油圧・水温警告灯がエンジン始動後に消灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、すぐに停車してエンジンを停止してください。

- **エンジンがオーバーヒートしているときは、水温警告アイコンが点灯します。エンジンを冷ましてください。**
- **エンジンオイルの油圧が低いときは、油圧警告アイコンが点灯します。オイル量を点検してください。（7-2 ページを参照）**
- **エンジン冷却後やオイル補充後にも警告灯や警告アイコンが点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。点検を受けないまま、引き続き車両を運転しないでください。**

JAU78423

ステアリングダンパー・サスペンション警告灯 “⚠”

電子サスペンションもしくはステアリングダンパーに異常があると、この警告灯が点灯します。

要 点

車両の電源が ON になると、この警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU79353

ディスプレイ

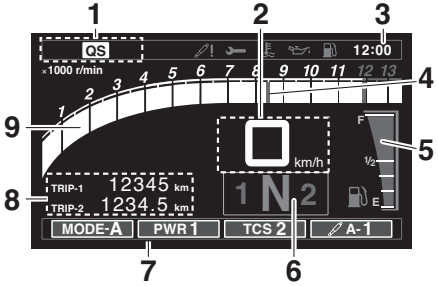
ディスプレイには、ストリートモード（STREET　MODE）とトラックモード（TRACK MODE）の２種類があります。ほとんどの機能は同じですが、レイアウトが多少異なります。ディスプレイには、次の項目があります。

- スピードメーター
- タコメーター
- 燃料計
- 情報ディスプレイ
- ギヤポジション表示
- YRC ディスプレイ
- QS 表示灯
- 時計
- 最大回転数ホールド表示
- ラップタイマー
- 燃料残量警告アイコン
- 油圧警告アイコン
- 水温警告アイコン
- SCU トラブル警告アイコン
- ECU トラブル警告アイコン

要　点

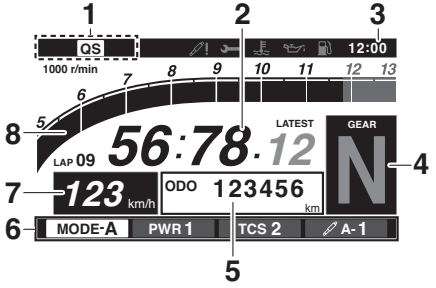
このモデルは TFT LCD により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見易さを実現しています。しかし、場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。

ストリートモード



1. QS 表示灯
2. スピードメーター
3. 時計
4. 最大回転数ホールド表示
5. 燃料計
6. ギヤポジション表示
7. YRC ディスプレイ
8. 情報ディスプレイ
9. タコメーター

トラックモード



1. QS 表示灯
2. ラップタイマー
3. 時計
4. ギヤポジション表示
5. 情報ディスプレイ
6. YRC ディスプレイ
7. スピードメーター
8. タコメーター

JWA18210

⚠ 警 告

設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要　点

- メーターのキロメートルとマイルの単位切り替えについては、4-19 ページを参照

してください。
● 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

スピードメーター
スピードメーターは、車両の走行速度を表示します。
タコメーター
タコメーターは、毎分のエンジン回転数を表示します。車両の電源が ON になると、タコメーターは一旦最大値まで表示し、その後ゼロに戻ります。

要　点
● トラックモードでは、タコメーターは 5000 r/min 以上を表示します。
● ストリートモードでは、タコメーターは色の調整ができるほか、ON/OFF 可能な最大回転数ホールド表示があります。

JCA10032

注 意
タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 11800 r/min 以上

燃料計
燃料計は、燃料タンク内の燃料の量を表示します。燃料計のセグメントが “F”（フル）から “E”（空）に向け、燃料残量が減るにつれて消灯していきます。
最後のセグメントが点滅を始めたり、燃料残量警告アイコンが表示されたら、速やかに給油してください。

要　点
全てのセグメントが繰り返し点滅する場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

時計
この時計は 12 時間表示です。
情報ディスプレイ
この部分は、外気温や冷却水温、トリップメーター、燃費の状態などの情報を表示します。表示項目は、メニュー画面で 4 つのグループに設定できます。
情報ディスプレイの項目は、次のとおりです。
A.TEMP: 外気温
C.TEMP: 冷却水温
TRIP-1: トリップメーター 1
TRIP-2: トリップメーター 2
F-TRIP: フューエルトリップメーター
ODO: オドメーター
FUEL CON: 燃料消費量
FUEL AVG: 平均燃料消費量
CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量

要　点
● オドメーターは、999999 で固定されます。
● TRIP-1 とTRIP-2は9999.9までカウントを続け、その後リセットされます。
● 燃料タンクの残量が少なくなると、F-TRIP が自動的に表示され、その時点からの走行距離を表示します。
● 給油後、一定距離を走行すると、F-TRIP は自動的に消灯します。
● TRACK MODE では、情報ディスプレイ項目として、FASTEST（最速ラップタイム）、AVERAGE（平均ラップタイム）も表示できます。

TRIP-1、TRIP-2、F-TRIP、FUEL CON、FUEL AVE の各項目は、個別にリセットできます。
情報ディスプレイ項目のリセット
1. ホイールスイッチを用いて、リセットしたい表示項目が現れるまで画面を移動させます。
2. ホイールスイッチを短押しすると、選択項目が約 5 秒間点滅します。（ストリートモードでは、二つの項目がリセット可能な場合、上の項目がはじめに点滅します。下の項目を選択するには、下に移動

します。）

3. 選択した項目が点滅している間に、ホイールスイッチを 1 秒間押し続けるとリセットできます。

ギヤ表示

ギヤが何速に入っているかを表示します。このモデルは、ニュートラルと 6 段変速です。ニュートラル位置は、ニュートラルインジケーター “**N**” と、ギヤ表示 “**N**” により表示されます。

最大回転数ホールド表示

タコメーターに短い棒が一時的に現れ、直近の最高エンジン回転数を示します。

YRC ディスプレイ

現在のモード（YRC mode）と、関連する PWR、TCS、ERS の設定が表示されます。YRC 項目（PWR、TCS、QSS）個々の設定は、4 つのグループに分け、個別に管理・設定できます。これらの設定グループには、MODE-A、MODE-B、MODE-C、MODE-D があります。モードスイッチを用いて YRC モードを切り替え、またメイン画面から設定を変更することもできます。

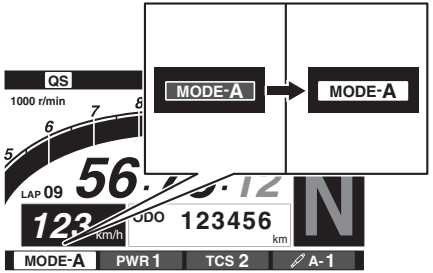
要　点

YRC モードは、工場出荷時には乗車状況ごとに、異なる設定になっています。

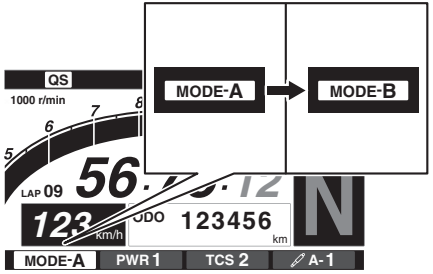
- MODE-A は、最もスポーティな設定です。
- MODE-B は、標準的な設定です。
- MODE-C は、ツーリング向けの設定です。
- MODE-D は、雨天時用の設定です。

YRC モードの切り替えおよび設定の変更

1. “MODE” スイッチを押し、調整したい項目をハイライトさせます。

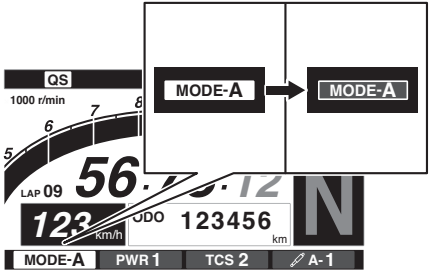


2. セレクトスイッチ “∧” ／ “∨” で選択項目の設定値を変更します。



要　点

- 車両が動いているとき、スロットルグリップが開いているとき、車輪の過度のスリップが検知されたときなど、状況によっては、特定の YRC 項目は調整できません。
- YRC 項目がハイライトされていても調整できないときは、YRC 項目のボックスが黒に戻ります。

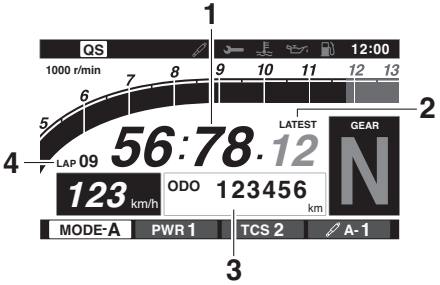


トラクションコントロールシステムを OFF にするには、“MODE” スイッチで TCS を選択し、TCS OFF が表示されるまでセレクトスイッチ “∧” を押し続けます。再び TCS を ON にするには、TCS OFF を選択し、セレクトスイッチ “∨” を押します。（TCS は以前の設定に戻ります）

ラップタイマー

このストップウォッチ機能は、40 周回分ま

で記録を測定できます。メイン画面では、ラップタイマーは現在のラップタイムと周回数を表示します（LAP マークが表示されます）。≡O/LAP スイッチでラップタイムを記録します。周回が終わると、ラップタイマーは最新のラップタイム（LATEST マークが表示されます）を約 5 秒間表示します。



1. ラップタイム
2. 最新ラップタイム表示 “LATEST”
3. 情報ディスプレイ項目
4. 周回数

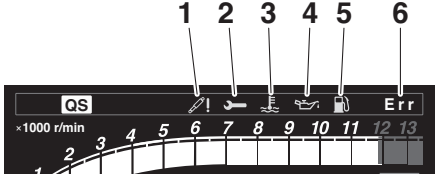
ラップタイマーの使い方

1. ホイールスイッチを短押しします。情報ディスプレイの項目が約 5 秒間点滅します。
2. 点滅している間に、ホイールスイッチを上方向に回します。ラップタイマーが約 5 秒間点滅します。
3. 点滅している間に、ホイールスイッチを長押ししてラップタイマーを有効にするか、停止させます。
4. ラップタイマーが有効になったら、≡O/LAP スイッチを押して、計測を開始します。

要　点

- ラップタイマーを使用するには、エンジンが始動している必要があります。
- 情報ディスプレイを FASTEST または AVERAGE に設定し、追加のラップタイム情報を表示できます。
- メニュー画面にアクセスすると、ラップタイマーは自動的に停止します。
- ラップタイマーが停止しているときは、現在のラップについては記録されません。
- ラップタイムの記録は、メニュー画面から確認およびリセットができます。

警告アイコン



1. SCU 警告 “⚠”
2. ステアリングダンパー警告 “🔧”
3. 水温警告 “🌡”
4. 油圧警告 “🛢”
5. 燃料残量警告 “⛽”
6. エラーモード警告 “Err”

SCU トラブル警告 “⚠”

前後サスペンションに異常が検知されると、サスペンショントラブル警告アイコンが表示されます。

ステアリングダンパー警告 “🔧”

ステアリングダンパーに異常が検知されると、ステアリングダンパー警告アイコンが表示されます。

水温警告 “🌡”

エンジン冷却水温が 117 °C 以上になると、このアイコンが表示されます。車両を停止さ

せてエンジンを OFF にし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告 “”

エンジン運転中に油圧が低下すると、このアイコンが表示されます。メインスイッチを ON にしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまでこのアイコンが点灯します。

JCA21210

注 意

エンジン運転中に油圧警告灯が点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が不足しているときは、エンジンオイルを補給してください。エンジンオイル量が充分であっても油圧警告灯が点灯する場合は、すぐにエンジンを停止し、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

燃料残量警告 “”

タンク内の燃料残量がおよそ 4.0 L になると、このアイコンが表示されます。

エラーモード警告 “Err”

内部エラーが発生すると、次のとおりエラーモード表示が現れます。

“Err” と “” は、ECU のエラーを示します。

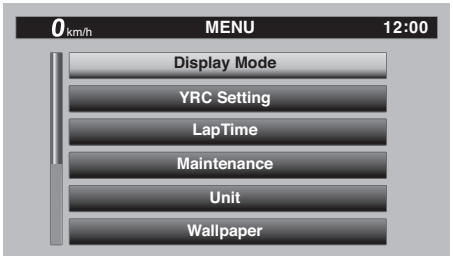
“Err” と “” は、SCU のエラーを示します。

要 点

- エラーの状態によっては、ディスプレイは正しく機能せず、車両の設定も変更できないことがあります。
- ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU79362

メニュー画面



メニュー画面には、次の設定モジュールがあります。モジュールを選択し、関連する設定に変更を施します。メイン画面からも設定の変更やリセット操作は行えますが、メニュー画面では全ての表示および設定モジュールにアクセスできます。

モジュール	説明
Display Mode	メイン画面の表示を、ストリートモード／トラックモードの間で切り替えます。
YRC Setting	YRC および ERS の設定を行います。
Lap Time	ラップタイムの表示およびリセットを行います。
Maintenance	3 種類の定期点検項目インターバルの表示およびリセットを行います。
Unit	キロメートルとマイル単位の切り替え、および燃料消費単位の設定を行います。
Wallpaper	背景色を設定します。
Shift Indicator	シフトインジケーターランプの ON/OFF 切り替え、および回転数の設定を行います。
Display Setting	マルチファンクションディスプレイウインドウの表示項目の設定を行います。
Brightness	画面の明るさを調節します。
Clock	時刻調整を行います。
All Reset	全ての設定を工場出荷時の設定に戻します。

メニューへのアクセスと操作

次のホイールスイッチ操作は、メニュー画面およびモジュールにおけるアクセス、選択、移動における共通操作です。

長押し - ホイールスイッチを 1 秒以上押すことで、メニュー画面にアクセスもしくはメニュー画面からメイン画面に戻ります。

選択 - ホイールスイッチを上下に回転させてモジュールや設定項目をハイライトさせ、ホイールスイッチを短押しして選択を確定します。

三角マーク - 設定画面によっては、上向きの三角マークがあります。三角マークを選択してホイールスイッチを短押しすると、画面を一つ前に戻すことができます。なお、三角マークを選択してホイールスイッチを長押しすると、メイン画面に戻ります。

要　点

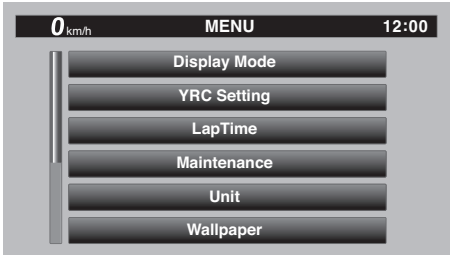
車両の動きが検知されると、自動的にメニュー画面を抜け、メイン画面に戻ります。

“Display Mode”

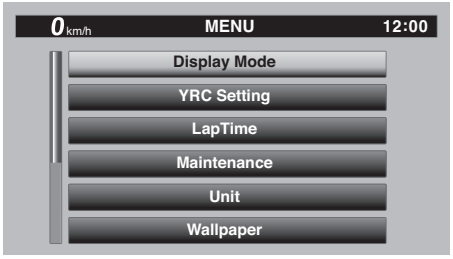
ディスプレイモードには、ストリートモードとトラックモードの 2 種類があります。

ディスプレイモードの設定

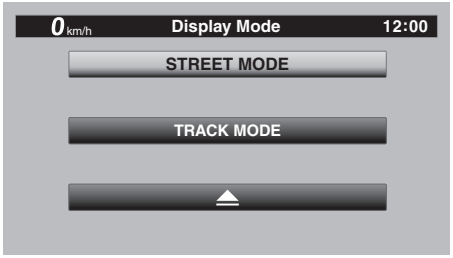
1. ホイールスイッチを長押しして、メニュー画面に入ります。



2. “Display Mode” を選択します。



3. STREET MODE または TRACK MODE を選択します。



4

4. ホイールスイッチを長押しして設定画面を抜け、他のモジュールを選択します。

“YRC Setting”

このモジュールでは、4 つの YRC モード（MODE-A、MODE-B、MODE-C、MODE-D）を、YRC アイテム（PWR、TCS、QSS、ERS）の設定値を調整（もしくは ON/OFF）することでカスタマイズできます。

PWR

最もアグレッシブなスロットルレスポンスを得るには PWR-1 を、標準的なスロットル・エンジンレスポンスを得るには PWR-2 を、雨天時や弱めのエンジン出力が望まれる場合は PWR-3 を選択します。

TCS

トラクションコントロールを最小化するには TCS-1 を、普通レベルにするには TCS-2 を、雨天時や強いトラクションコントロールが必要な場合は TCS-3 を選択します。

要　点

TCS はメイン画面からのみ ON/OFF の切り替えができます。（4-5 ページのモードスイッチ項目を参照ください）

QSS

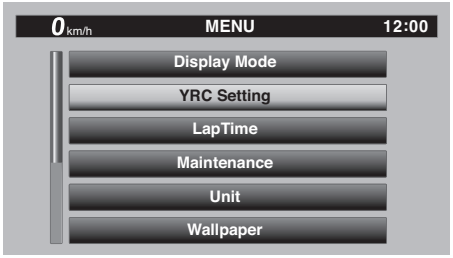
QSS は、ON/OFF の切り替えができます。OFF ではシステムは完全に無効となり、シフトアップにはクラッチレバー操作が必要になります。

要　点

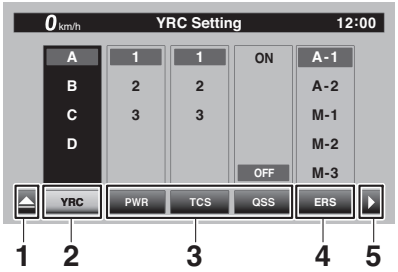
QSS を ON または OFF にしても、その他のシステムに影響を与えることも、また影響を受けることもありません。

YRC モードのカスタマイズおよび YRC 項目の調整

1. メニュー画面から、“YRC Setting” を選択します。

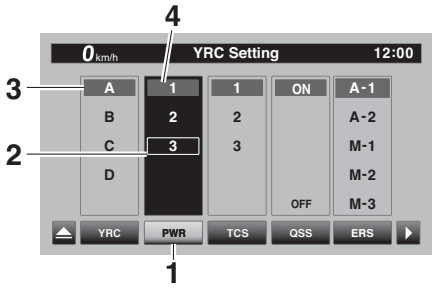


2. “YRC Setting” 画面が表示され、YRC モードボックス “YRC” がハイライトされます。ホイールスイッチを短押ししてボックスに入り、YRC モード（A、B、C、D）のうち調整したいものを選択します。



1. 三角マーク
2. YRC モードボックス
3. YRC 項目
4. ERS モード
5. ERS メニューへ

3. 調整したい YRC 項目（PWR、TCS、QSS、ERS）を選択します。



1. YRC 項目
2. 現在設定値
3. YRC モード
4. 工場設定値

要　点

- YRC項目が選択されると、現在の設定レベルが青枠で表示され、工場出荷時の標準設定がグレーのボックスで表示されます。
- 工場出荷時の標準設定は、選択した YRC モードにより異なります。

4. 他のYRCモードや個々のYRC項目をカスタマイズするには、手順 2 からを繰り返します。設定が終わったら、最左の三角マークを選択してメニュー画面に戻るか、“▶”マークを選択して ERS モードの詳細設定に移ります。

ERS

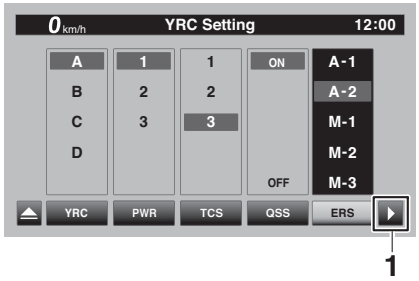
自動設定モードには、A-1 と A-2 の 2 つがあります。A-1 と A-2 は、工場設定値から、-5 ～ +5 の幅で設定できます。

手動設定モードには、M-1、M-2、M-3 の3つがあります。手動モードが選択されると、SCU はサスペンションの圧側・伸側減衰力を積極的には調整しません。手動モードにおいては、サスペンションは 32 段階で設定できます。

要　点

スプリングプリロードは手動設定です。(4-30 ページ、4-32 ページを参照)

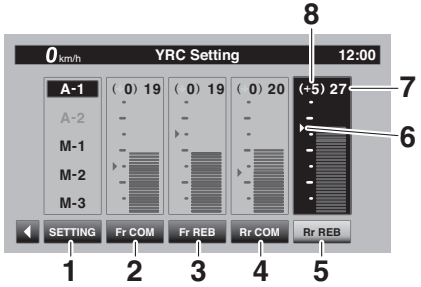
ERS モード設定の調整



1. ERS メニューへ

1. ERS右側の“▶”マークを選択します。

2. 画面表示が前後サスペンションの設定画面に切り替わり、ERS モード選択ボックス “SETTING” がハイライトされます。ホイールスイッチを短押ししてボックスに入り、ERS モード（A-1、A-2、M-1、M-2、M-3）のうち調整したいものを選択します。



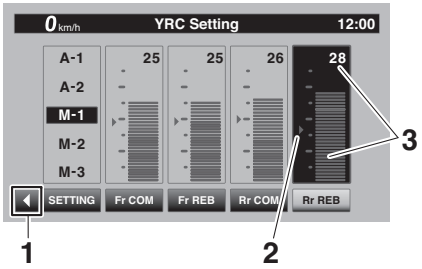
1. ERS モード選択ボックス “SETTING”
2. フロント圧側減衰力
3. フロント伸側減衰力
4. リヤ圧側減衰力
5. リヤ伸側減衰力
6. 工場設定値
7. 現在設定値
8. オフセット値

3. サスペンション項目（Fr COM、Fr REB、Rr COM、Rr REB）のうち、調整したいものを選択します。

要　点

- 減衰力を小さくしてサスペンションを軟らかくするには、設定値を大きくします。
- 減衰力を大きくしてサスペンションを硬くするには、設定値を小さくします。
- A-1 および A-2 では、( ) 内の数字は工場出荷時の設定から何段階変化したかを示します。
- A-1 もしくは A-2 のサスペンション設定項目が変更されると、その他の自動設定モードにおいても同様にサスペンション項目の値が変更されます。（同一項目における増減値は自動的にリンクします）
- M-1、M-2、M-3 はリンクせず、個別に設定できます。

4. その他の ERS モードサスペンション設定項目を調整するには、手順 2 からを繰り返します。設定が終わったら、左にある “◀” マークを選択し、メインの “YRC Setting” メニューに戻ります。



1. YRC 設定メニューへ
2. 工場設定値
3. 現在設定値

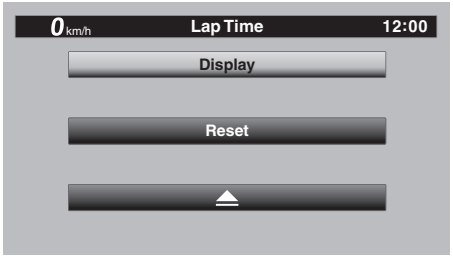
“Lap Time”

このモジュールでは、記録されたラップタイムの表示および削除が行えます。記録のうち、最速ラップおよび平均ラップタイムがスクリーン上部に表示されます。ホイールスイッチで移動することで、すべてのラップタイムを確認できます。上位 3 位までの最速ラップは、シルバーでハイライト表示されます。メモリーには 40 ラップまで記録できます。40 を超えると、古いもの（ラップ 1 から）が自動的に上書きされます。

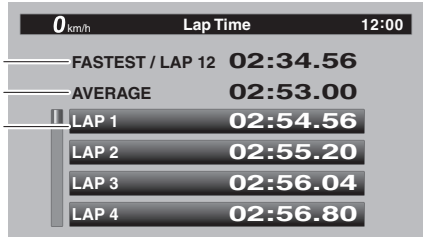
このモジュールには2つのオプションがあります：

“Display” では、記録されたラップタイムを確認できます。

“Reset” では、記録されたラップタイムを削除できます。

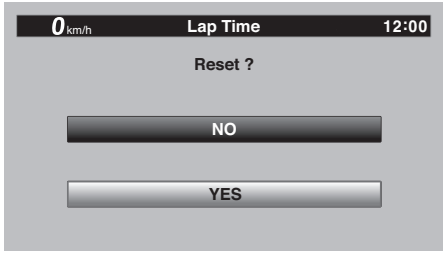


ホイールスイッチを用いて “Display” を選択し、記録されたラップを確認します。



1. 最速ラップ
2. 平均ラップタイム
3. ラップタイム記録

ホイールスイッチを用いて “Reset” を選択し、YES を選択することで全てのラップ記録を削除します。（NO を選択することで削除せずに前の画面に戻ります）

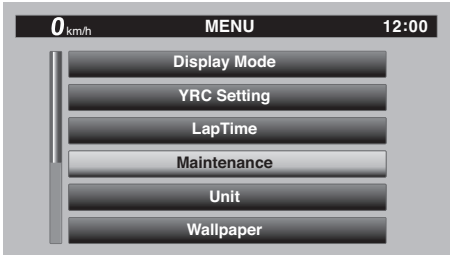


“Maintenance”

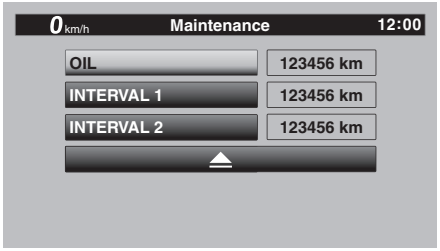
このモジュールでは、エンジンオイル交換時（OIL 項目を使用）から、INTERVAL 1・INTERVAL 2 のうち選択した方の間での走行距離を表示します。

<u>メンテナンス項目のリセット</u>

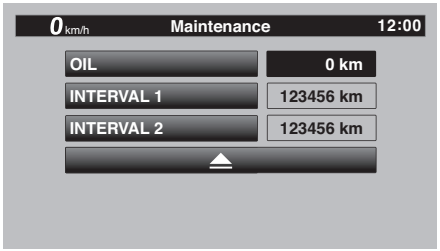
1. メニュー画面から、 “Maintenance” を選択します。



2. リセットしたい項目を選択します。



3. ホイールスイッチを長押しして、選択した項目をリセットします。



要　点

メンテナンス項目の名前は変更できません。

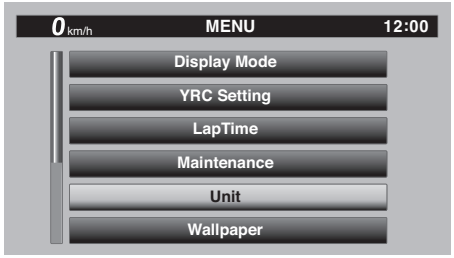
“Unit”

このモジュールでは、キロメートルとマイルの単位の切り替えと、燃料消費単位の表示を切り替えることができます。

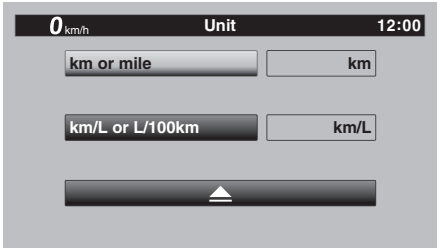
キロメートルを選択しているとき、燃料消費単位は “km/L” または “L/100km” に切り替えることができます。

単位の選択

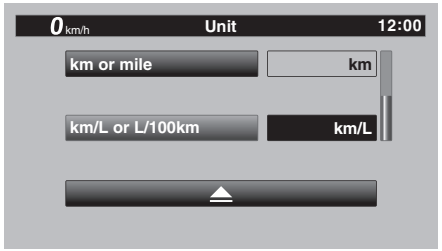
1. メニュー画面から、“Unit” を選択します。



2. “km or mile” および “km/L or L/100km” が表示されます。



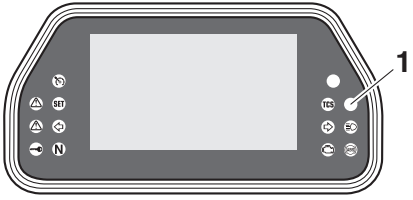
3. “km” を選択します。



4. “km/L” または “L/100km” のどちらかを選択します。
5. 三角マークを選択してモジュールを抜けます。

“Wallpaper”

このモジュールでは、ストリートモードとトラックモードの背景色について、day·night それぞれを黒と白から選択できます。インストルメントパネルのフォトセンサーが明るさを検知し、自動的に day · night を切り替えます。フォトセンサーは、昼夜モードそれぞれにおいて、明るさも最適な状態に微調整します。



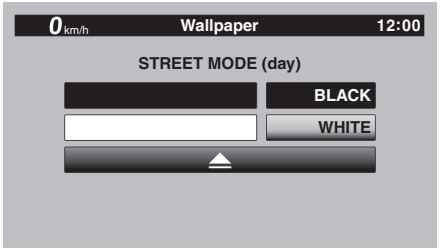
1. フォトセンサー

Wallpaper の設定

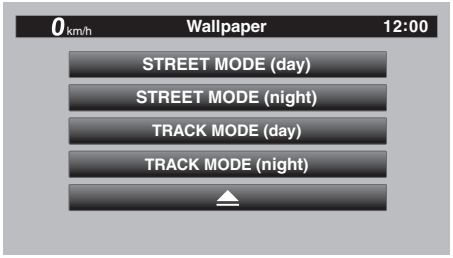
1. メニュー画面から、“Wallpaper” を選択します。



2. 調整したいモードを選択します（昼間の設定は day を、夜間の設定は night を選択します）。
3. 背景色を選択します（黒は BLACK を、白は WHITE を選択します）。



4. 三角マークを選択し、設定画面を抜けます。
5. 他の背景色を設定するには手順２からを繰り返すか、三角マークを選択してモジュールを抜けます。



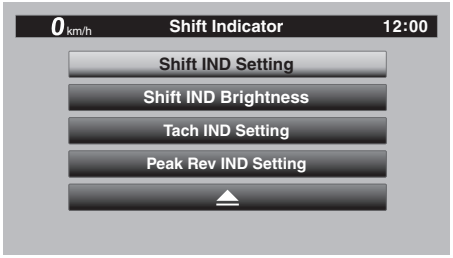
“Shift indicator”

シフトインジケーターのモジュールには、次の項目があります。

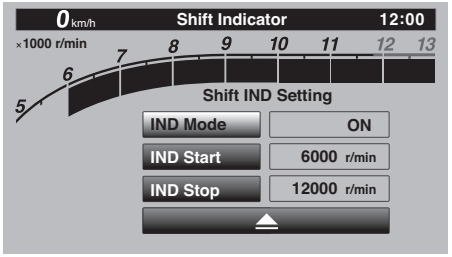
モジュール	説明
Shift IND Setting	シフトタイミングインジケーターのパターンを、“ON”、“Flash”、“OFF” から選択し、何回転（r/min）でインジケーターが点灯もしくは消灯するかを調節します。
Shift IND Brightness	シフトタイミングインジケーターの明るさを調整します。
Tach IND Setting	タコメーターのカラー表示を “ON” と “OFF” から選択し、何回転（r/min）でタコメーターが緑もしくはオレンジになるかを設定します。
Peak Rev IND Setting	タコメーターの最大回転数ホールド表示を、“ON” もしくは “OFF” から選択します。

設定変更のしかた

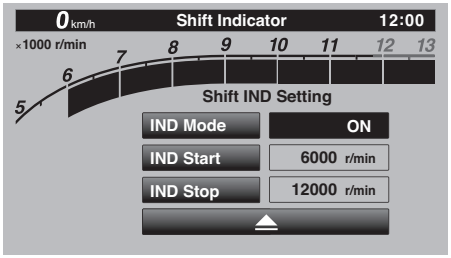
1. “Shift IND Setting” を選択します。



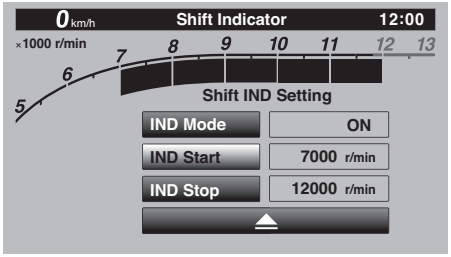
2. “IND Mode” を選択します。



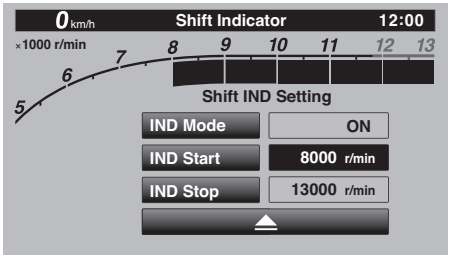
3. 設定したエンジン回転数に達したとき、インジケーターを常時点灯にするには “ON” を、消灯とするには “OFF” を、点滅させるには “Flash” を選択します。



4. “IND Start” を選択します。



5. ホイールスイッチを回し、インジケーターが点灯する回転数（r/min）を設定します。“IND Start” の設定可能レンジは、5000–12800 r/min の間です。



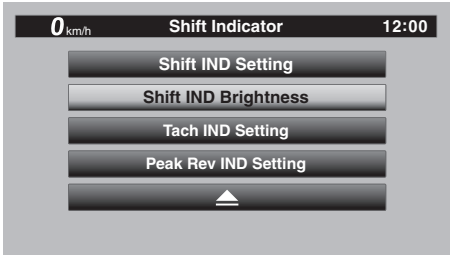
6. “IND Stop” を選択し、ホイールスイッチを回してインジケーターが消灯する回転数（r/min）を設定します。“IND Stop” の設定可能レンジは、5500–13000 r/min の間です。

要　点

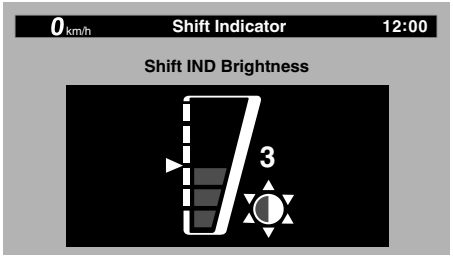
タコメーター上の青の部分は、現在設定されているシフトタイミングインジケーターの動作レンジを表します。

“Shift IND Brightness”

シフトタイミングインジケーターの明るさは、6 段階で調整できます。

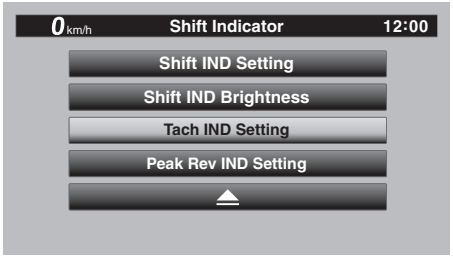


“Shift IND Brightness” を選択し、ホイールスイッチを用いて設定を調整します。短押しして設定を確定し、画面から抜けます。

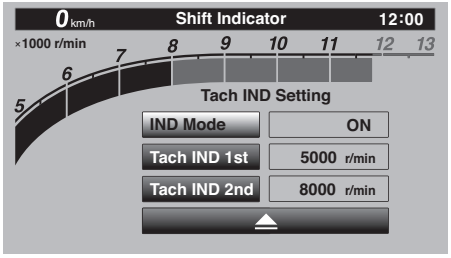


“Tach IND Setting”

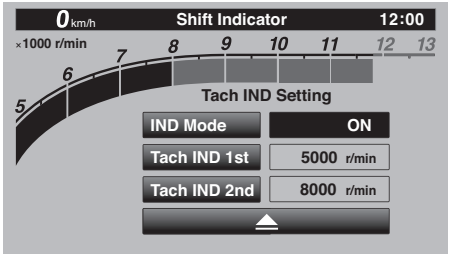
このモジュールでは、タコメーターの色表示の ON・OFF が切り替えられます。OFF にすると、タコメーターはレッドゾーン以下の全ての回転数（r/min）を白または黒で表示します（Wallpaper の設定によります）。ON にすると、中回転域から中高回転域にかけて、緑もしくはオレンジ色で表示させることができます。



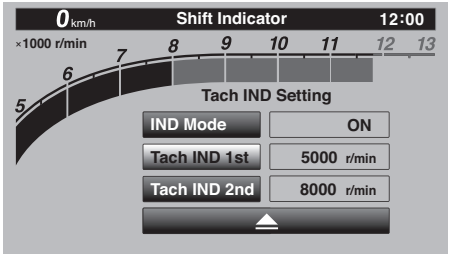
1. “Tach IND Setting” を選択します。



2. “IND Mode” を選択します。

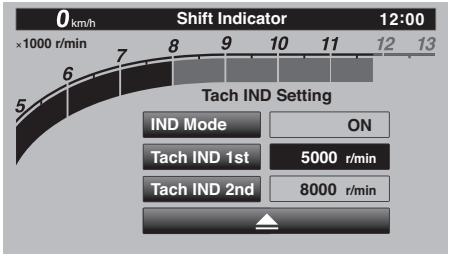


3. ON を選択しタコメーターの色表示を有効にします（もしくは OFF を選択し無効にします）。
4. “Tach IND 1st” を選択し、緑ゾーンの始点（r/min）を設定します。



5. 始点（r/min）をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値（r/min）から “Tach IND 2nd” における設定値（もしくはレッドゾーンまで）

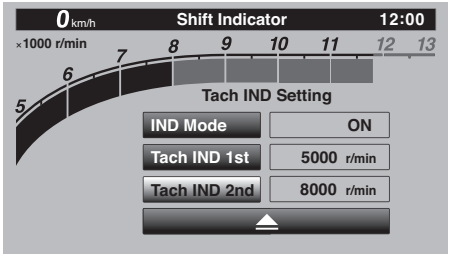
が、自動的に緑色で表示されます。



要　点

緑色表示の始点は、5000–11800 r/min の間で調整できます。

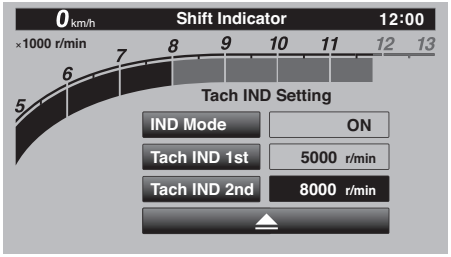
6. “Tach IND 2nd” を選択します。



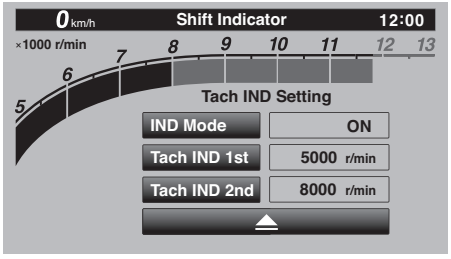
7. オレンジ色表示の始点（r/min）をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値（r/min）からレッドゾーンまでが、オレンジ色で表示されます。

要　点

オレンジ色表示の始点は、8000–11800 r/min の間で調整できます。



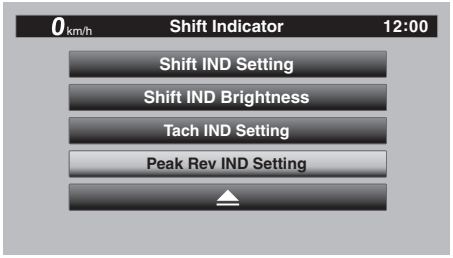
8. 三角マークを選択して、画面から抜けます。



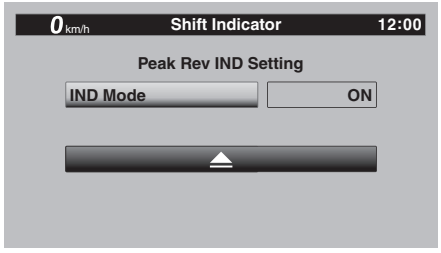
“Peak Rev IND Setting”

このモジュールでは、最大回転数ホールド表示のONもしくはOFFを切り替えられます。

1. “Peak Rev IND Setting” を選択します。



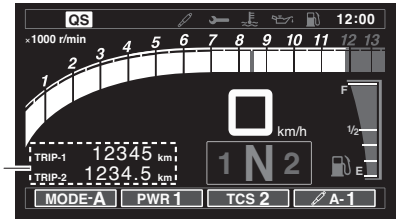
2. “IND Mode” を選択し、ON を選択してインジケーターを ON にするか、OFF を選択してインジケーターをOFFにします。



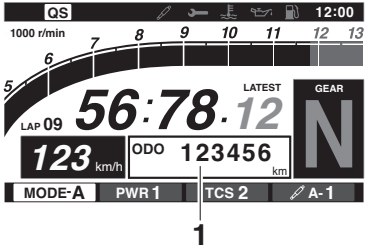
3. 三角マークを選択して、画面から抜けます。

“Display Setting”

このモジュールでは、情報ディスプレイ（TRIP-1、ODO、C. TEMP など）の、メイン画面でのグループ化が行えます。グループは 4 つあります。



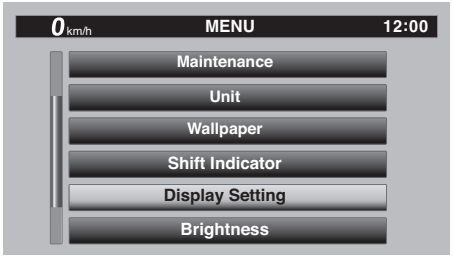
1. 情報ディスプレイ項目（ストリートモード）



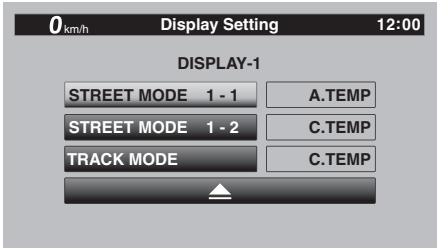
1. 情報ディスプレイ項目（トラックモード）

表示グループの設定のしかた

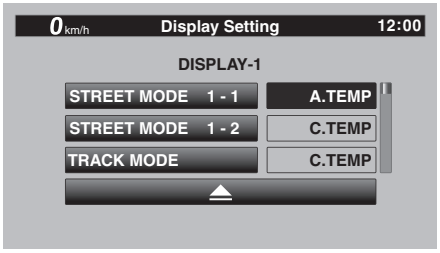
1. “Display Setting” を選択します。



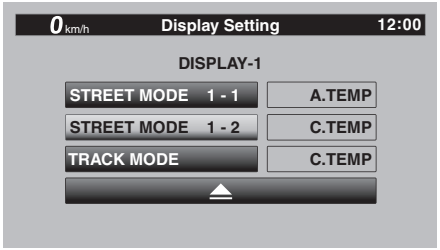
2. DISPLAY-1、DISPLAY-2、DISPLAY-3、DISPLAY-4 が表示されます。
3. 例えば、DISPLAY-1　　を選択すると、STREET MODE 1-1、STREET MODE 1-2、TRACK MODE が表示されます。



4. STREET MODE 1-1 を選択します。



5. ホイールスイッチで表示させたい表示項目を選択します。
   - A.TEMP: 外気温
   - C.TEMP: 冷却水温
   - TRIP-1: トリップメーター 1
   - TRIP-2: トリップメーター 2
   - ODO: オドメーター
   - FUEL CON: 総燃料消費量
   - FUEL AVG: 平均燃料消費量
   - CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量
6. STREET MODE 1-2 もしくは TRACK MODE を選択し、残りの DISPLAY-1 グループの項目を設定します。



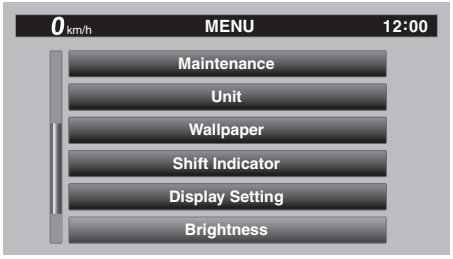
7. 三角マークを選択し、画面から抜けます。他の表示グループを設定するには、手順3からを繰り返します。

“Brightness”

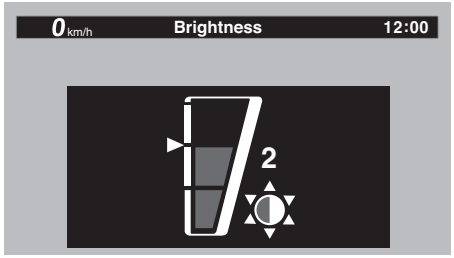
このモジュールでは、ディスプレイ画面の標準の明るさを調整できます。

明るさの設定のしかた

1. “Brightness” を選択します。



2. ホイールスイッチで好みの明るさに調節し、短押しして設定を確定させます。

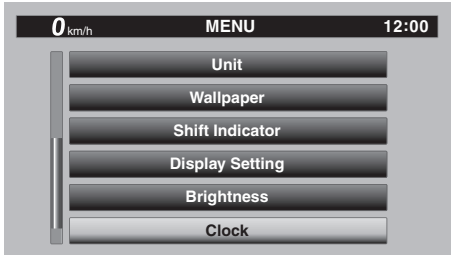


“Clock”

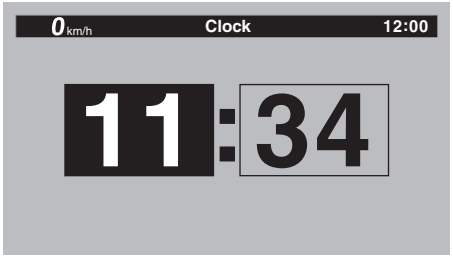
このモジュールでは、時刻設定を行えます。

時刻設定のしかた

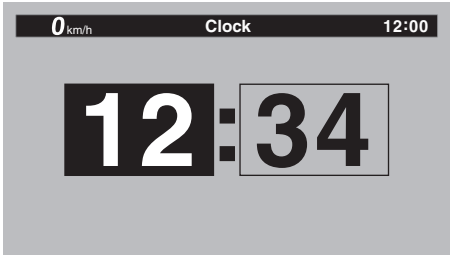
1. メニュー画面から “Clock” を選択します。



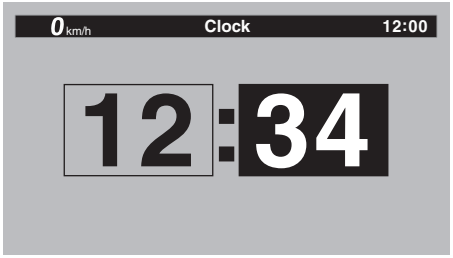
2. “Clock” が選択されると、「時」がハイライト表示されます。



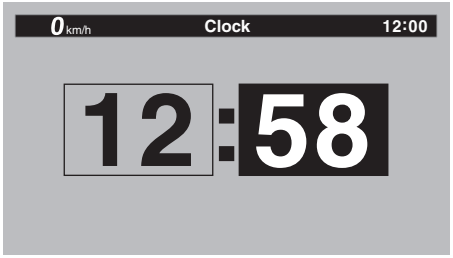
3. ホイールスイッチを回転･短押しし、「時」を設定します。



4.「分」がハイライト表示されます。



5. ホイールスイッチを回転･短押しし､｢分｣を設定します。



6. ホイールスイッチを再度短押しし、設定画面を抜けてメニュー画面に戻ります。

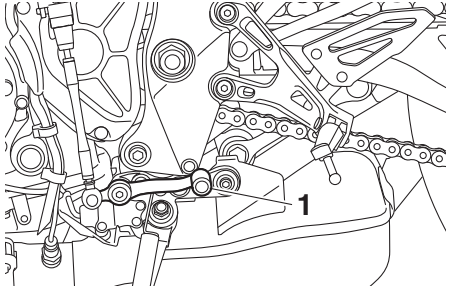
“All Reset”

このモジュールでは、オドメーターと時計を除き、全ての項目を工場出荷時の設定に戻します。

YES を選択してホイールスイッチを短押しすると、全ての項目がリセットされ、自動的にメニュー画面に戻ります。

JAU67010

シフトペダル



1. シフトペダル

シフトペダルは車両の左側にあり、クラッチレバーと合わせてこの車に装備されている常時かみ合式の 6 段変速機を操作します。クイックシフトシステムがオンのとき、シフトスイッチがシフトペダルの動きを検知してクラッチレバーを操作しなくてもシフトアップが可能です。（詳しくは 4-15 ページ参照）

JAU63040

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

⚠ 警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

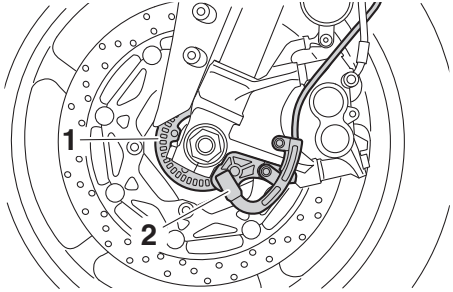
要　点

- ABSが作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

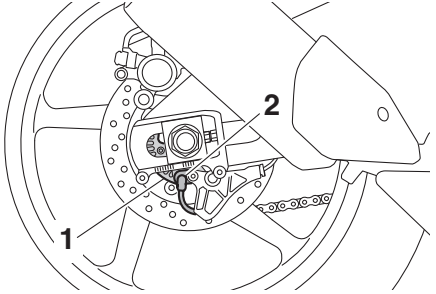
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

JAU13075

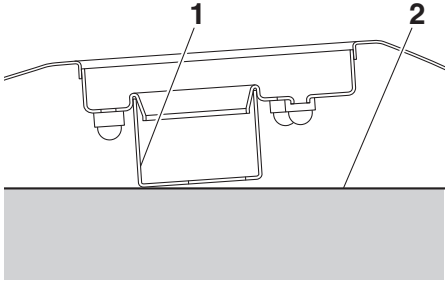
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠警 告

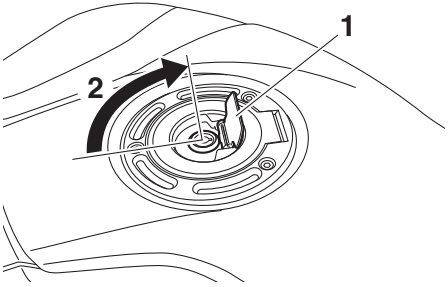
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 17 L

JCA12512

注 意

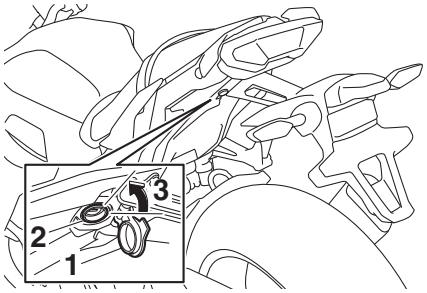
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU57991

シート

シートの取り外しかた

1. シートロックカバーを開いてキーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

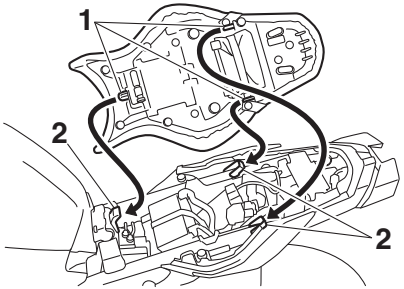


1. シートロックカバー
2. シートロック
3. 解除

2. キーを回した状態でシートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

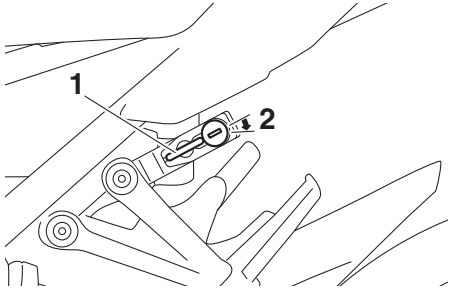
2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取り、ロックカバーを閉めます。

要 点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

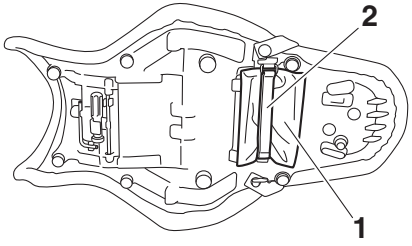
要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU33142

書類入れ

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。(4-29 ページ参照) 車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。



1. 書類入れ
2. バンド

JAU67383

フロントフォークの調整

このモデルには、ÖHLINS の電子レーシングサスペンションが装備されています。
圧側減衰力、伸側減衰力は、電子的に調整されます。(4-16 ページの ERS 項目を参照ください)

JCA22471

注 意

- **サスペンション調整時には、ゴールドアルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を払ってください。**
- **サスペンションの内部構造へのダメージを避けるため、最大もしくは最小の設定値を超えて回さないでください。**

スプリングプリロード

スプリングプリロードの調整は、手動で行います。

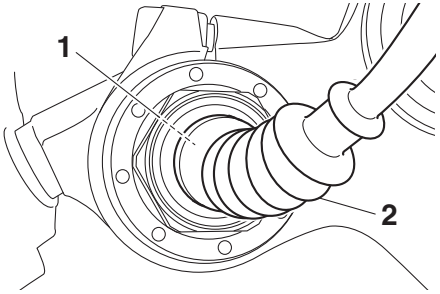
1. 車両の電源を OFF にします。
2. 各カプラーのゴムカバーを上にずらします。
3. 左右のフロントフォークのカプラーを外します。

JCA22770

注 意

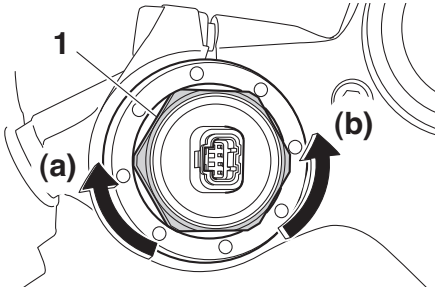
カプラーの損傷を防ぐため、鋭利な道具を用

いたり、過度な力を加えないでください。



1. カプラー
2. ゴムカバー

4. スプリングプリロードを大きくしサスペンションを硬くするには、左右の調整ボルトを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくしサスペンションを軟らかくするには、左右の調整ボルトを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a)* 方向へ 0 回転
標準：
(a)* 方向へ 11 回転
最大（ハード）：
(a)* 方向へ 15 回転
*（アジャスターナットを (b) 方向へいっぱいに回したところを基点とします。）

5. 左右のフォークのカプラーを接続します。
6. ゴムカバーを元の位置に戻します。

JWA14671

⚠ 警 告

スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

JAU67393

リヤクッションの調整

このモデルには、ÖHLINS の電子レーシングサスペンションが装備されています。
圧側減衰力、伸側減衰力は、電子的に調整されます。(4-16 ページの ERS 項目を参照ください)

JCA10102

注 意

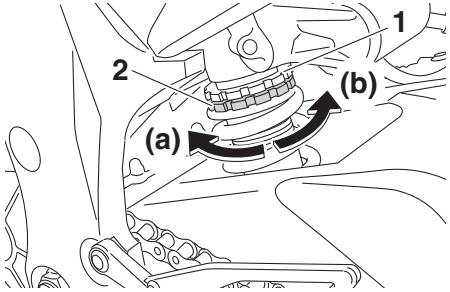
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

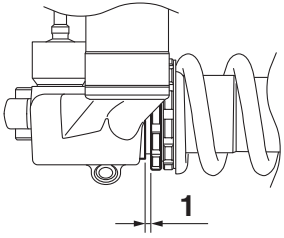
スプリングプリロードの調整は、手動で行います。

1. ロックナットをゆるめます。
2. スプリングプリロードを大きくしサスペンションを硬くするには、スプリングプリロードアジャストリングを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくしサスペンションを軟らかくするには、スプリングプリロードアジャストリングを (b) 方向に回します。
   スプリングプリロードは、セット長 A を測定して決定します。セット長 A が長くなるほどスプリングプリロードは大きくなり、セット長 A が短くなるほどスプリングプリロードは小さくなります。

● サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。



1. ロックナット
2. スプリングプリロードアジャストリング



1. セット長 A

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 0.0 mm
標準：
セット長 A = 2.0 mm
最大（ハード）
セット長 A = 9.0 mm

3. ロックナットを規定トルクで締め付けます。

JCA22760

注 意

常にスプリングプリロードアジャストリングに対してロックナットを規定トルクで締め付けてください。

締め付けトルク：
ロックナット：
25 N · m (2.5 kgf · m)

JWA10222

⚠ 警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

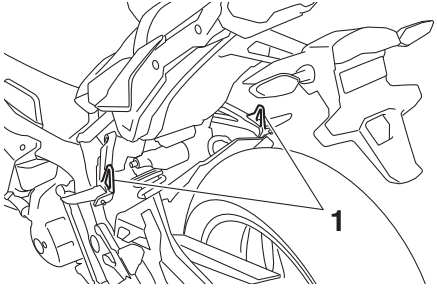
● シリンダー本体を加工または分解しない

でください。

- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU15152

荷掛けフック



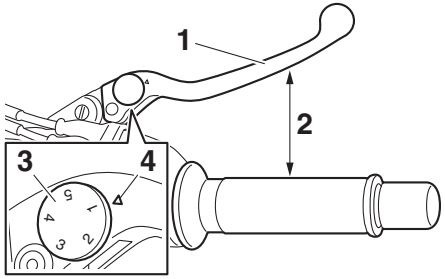
1. 荷掛けフック

タンデムフットレストに、荷掛けフックがあります。

JAU45542

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. “△” マーク

要　点

アジャスターの数字と “△” マークを、必ず合わせてください。

JAU49453

DC ジャック

JWA14361

⚠警 告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JCA15432

注 意

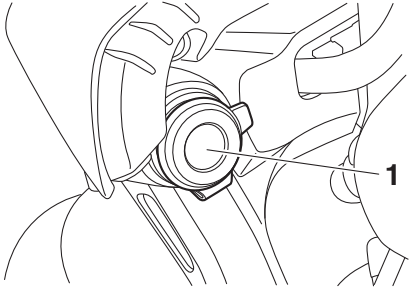
DC ジャックに接続するアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 12 W（1.0 A）を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

この車には、DC ジャックが搭載されています。

DC ジャックに接続した 12V のアクセサリーは、エンジンを始動した状態で使用します。

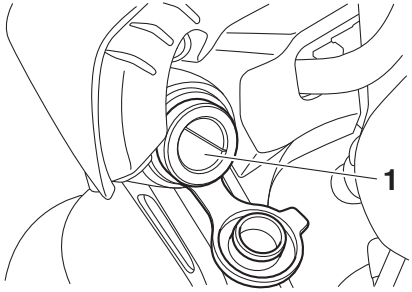
DC ジャックの使いかた

1. メインスイッチを OFF にします。
2. DC ジャックキャップを取り外します。



1. DC ジャックキャップ

3. アクセサリーをオフにします。
4. アクセサリーのプラグを DC ジャックに差し込みます。



1. DC ジャック

5. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。（6-1 ページ参照）
6. アクセサリーをオンにします。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU57950

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.スターター/エンジンストップスイッチを“ ”にします。
3.メインスイッチをONにします。
4.ギヤをニュートラルに入れます。
5.スターター/エンジンストップスイッチの“ ”を押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　**いいえ** → ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.クラッチレバーを握ります。
8.ギヤを入れます。
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　**いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10.サイドスタンドを上げます。
11.クラッチレバーを握ります。
12.スターター/エンジンストップスイッチの“ ”を押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　**いいえ** → クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。
走行可能です。

日常点検

JAU15599

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU73450

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチがONのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。また、この機構が働くと車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転してもエンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けるとバッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合は、メインスイッチを一旦 OFF にして再度 ON にするリセット操作をしてください。
- 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU78762

エンジン始動

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、4-35 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを “ON” にし、スターター／エンジンストップスイッチが “⊖” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “⊜” 側を押して、エンジンを始動します。

要　点

スターター／エンジンストップスイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。

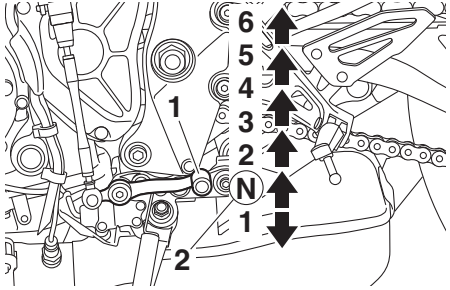
JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU67080

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

ギヤを切り替えることで、発進時、加速時、登坂時などに必要なエンジン出力量をコントロールします。
ギヤポジションは、イラストのとおりです。

要　点

素早くシフトアップするためには、クイックシフトシステムを ON にします。詳細は、4-15 ページの QSS の項目をご参照ください。

JCA22520

注 意

● ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

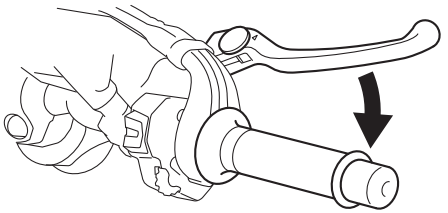
● QSS が ON のときにシフトアップする場合を除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジをすると、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU33175

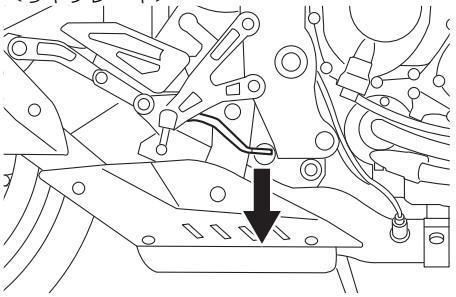
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

⚠警 告

● 急なブレーキ操作は避けてください（特に

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 7100 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠ 警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠警 告

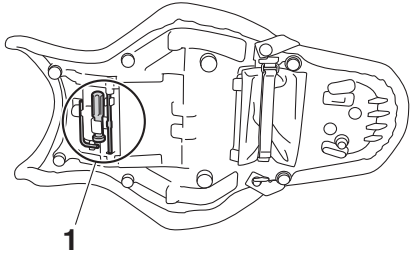
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU73410

サービスツール



1. サービスツール

一部のサービスツールはシートの裏側にあります。(4-29 ページ参照)
また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

JAU30376

エンジンオイル

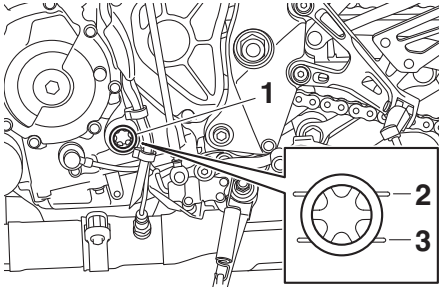
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

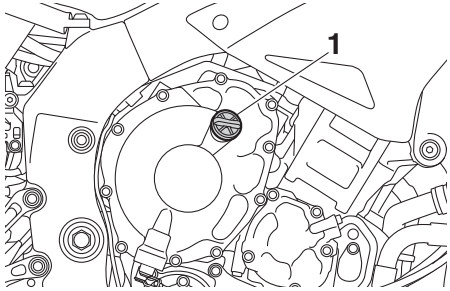
走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、2 ～ 3 分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、8-3 ページ参照)



1. オイル注入口

JAU47504

エンジンオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
　オイル交換時：
　　3.90 L
　オイルフィルター取り外し時：
　　4.10 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度につ

いては、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回： 1 か月点検時または 1000 km 時 2 回目以降： 30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠ 警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12102

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

⚠警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

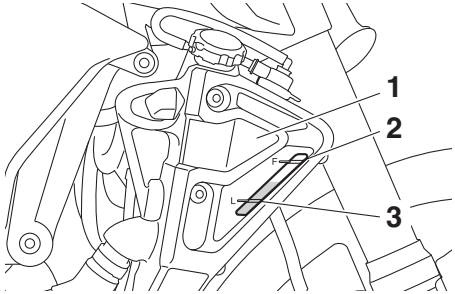
JAU30723

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



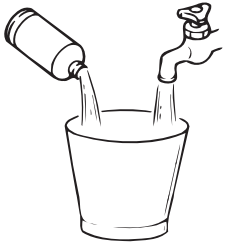
1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

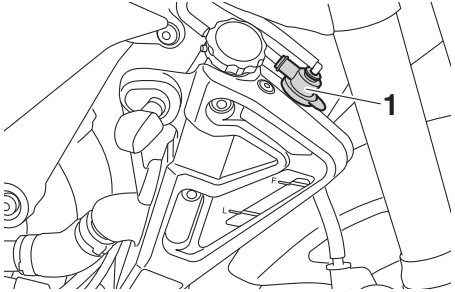
注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765

エアクリーナーエレメントの交換

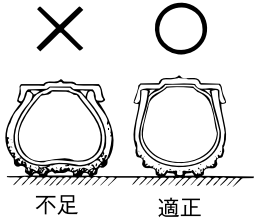
エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。

エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ
空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

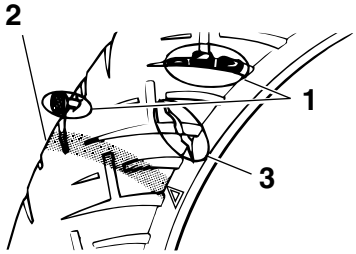
タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ
タイヤの溝の深さをウェアインジケーター

で点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120/70ZR17M/C(58W)
後輪：
190/55ZR17M/C(75W)
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX HYPERSPORT S20F
後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX HYPERSPORT S20R

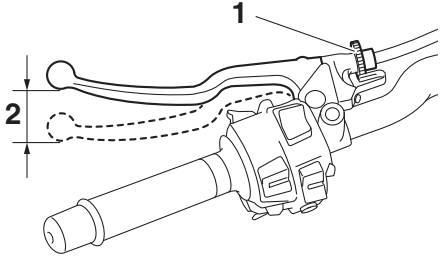
JAU48222

クラッチ

クラッチレバーの遊び

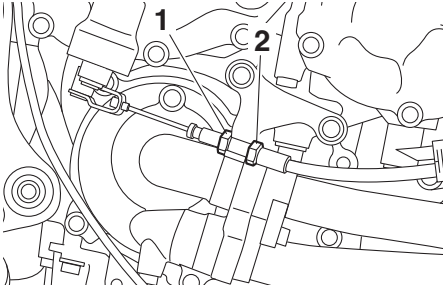
クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
5.0–10.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。
レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. アジャスター

JWA11841

⚠警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- **調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。**
- **1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。**

JAU31121

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36504

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

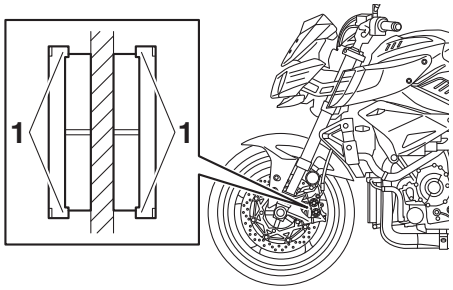
JAU49291

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

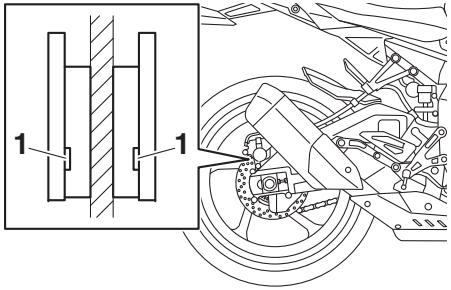
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

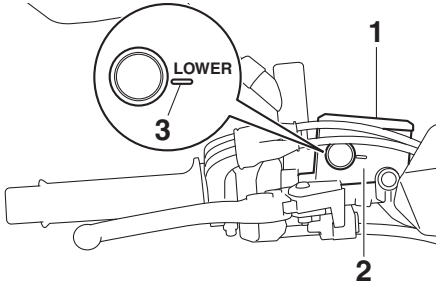


1. インジケーター溝

JAU44233

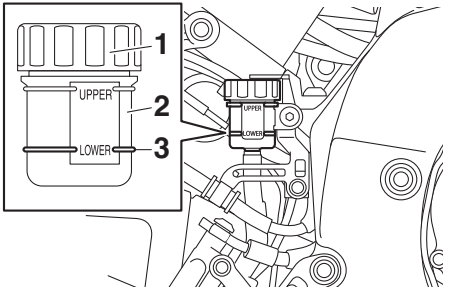
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

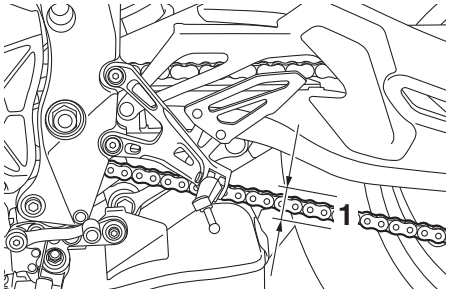
- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JAU22762

ドライブチェーン

JAU74251

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

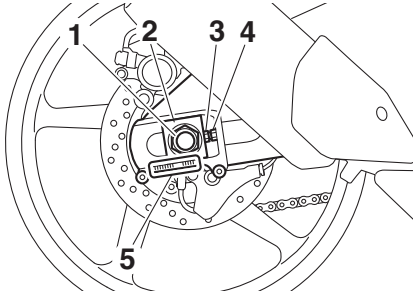
ドライブチェーンたわみ量：
20.0–30.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. アクスルナットをゆるめます。



1. アクスルナット
2. チェーンプラー
3. アジャスター
4. ロックナット
5. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
190 N · m (19 kgf · m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N · m (1.6 kgf · m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

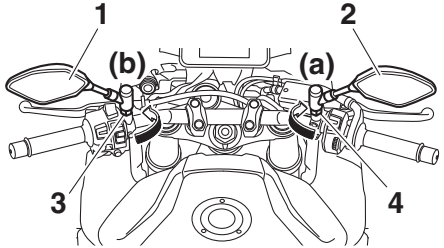
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆

の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

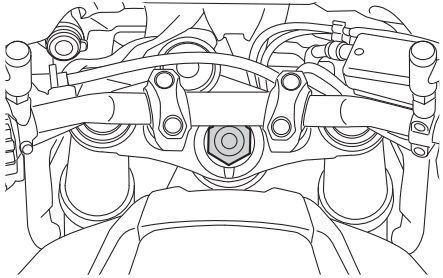
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

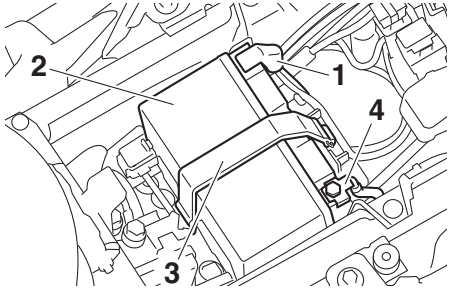
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU28791

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。（4-29 ページ参照）
2. バッテリーバンドを外します。
3. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. +リード線
2. バッテリー
3. バッテリーバンド
4. −リード線

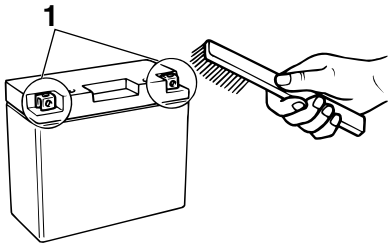
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

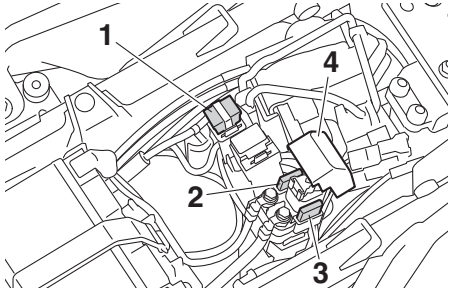


1. ターミナル

JAU73994

ヒューズの交換

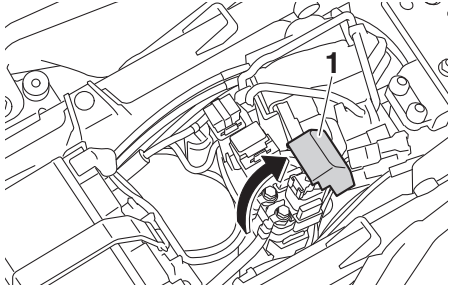
メインヒューズ、ABS モーターヒューズはシートの下にあります。(4-29 ページ参照)



1. メインヒューズ
2. ABS モーターヒューズ
3. スペア ABS モーターヒューズ
4. スターターリレーカバー

要　点

スターターリレーカバーを上側に持ち上げて取り外します。

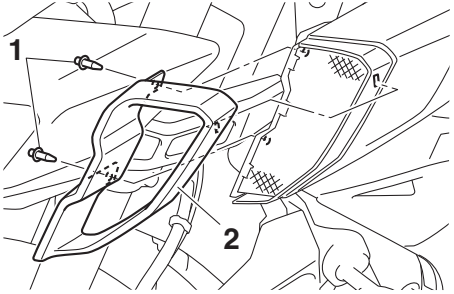


1. スターターリレーカバー

ヒューズボックスは左サイドカバー A と B を外したところにあります。

ヒューズボックスのヒューズ交換は以下のように行います。

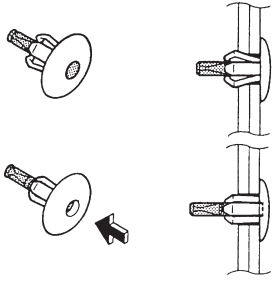
1. クイックファスナーを取り外し、左サイドカバー A を取り外します。



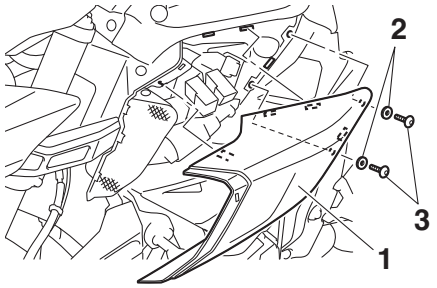
1. クイックファスナー
2. 左サイドカバー A

要　点

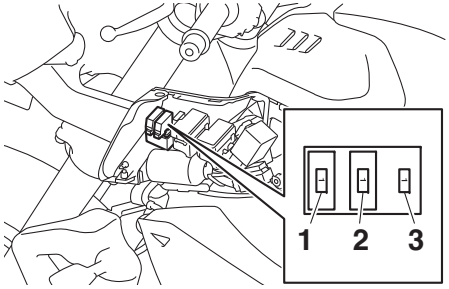
クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。



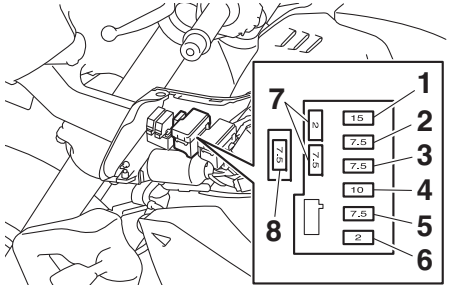
2. ボルトとワッシャーを取り外し、左サイドカバー B を取り外します。



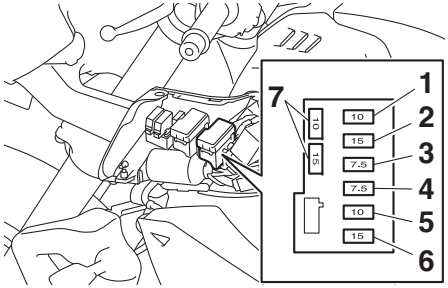
1. 左サイドカバー B
2. ワッシャー
3. ボルト



1. ブレーキランプヒューズ
2. クルーズコントロールヒューズ
3. スペアヒューズ



1. イグニッションヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. ABS ECU ヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. ハザードヒューズ
6. DC ターミナルヒューズ 1 （DC ジャック）
7. スペアヒューズ
8. SCU ヒューズ

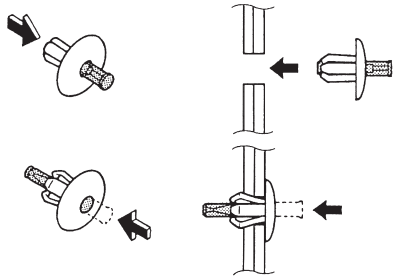


1. ABS ソレノイドヒューズ
2. フューエルインジェクションヒューズ
3. 電子制御スロットルバルブヒューズ
4. バックアップヒューズ
5. サブラジエターファンモーターヒューズ
6. ラジエターファンモーターヒューズ
7. スペアヒューズ

3. カバーを元の位置に戻します。
4. ワッシャー、ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

要　点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。



ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ :

メイン :
50.0 A
DC ターミナル 1:
2.0 A
ヘッドライト :
10.0 A
シグナル :
7.5 A
イグニッション :
15.0 A
ラジエターファンモーター :
15.0 A
サブラジエターファンモーター :
10.0 A
ABS モーター :
30.0 A
ハザード :
7.5 A
ABS ECU ヒューズ :
7.5 A
ABS ソレノイド :
10.0 A
SCU ヒューズ :
7.5 A
フューエルインジェクション :
15.0 A
バックアップ :
7.5 A
電子制御スロットルバルブ :
7.5 A
ブレーキランプ :
1.0 A
クルーズコントロール :
1.0 A

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU74910

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-14 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

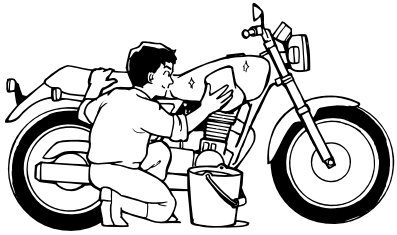
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27795

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

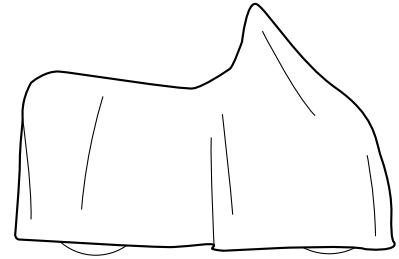
- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

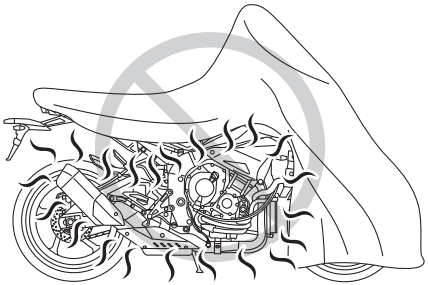
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28086

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU80980

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、

「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

製品仕様

寸法：

全長：
2095 mm
全幅：
800 mm
全高：
1110 mm
シート高：
825 mm
軸間距離：
1400 mm
最低地上高：
130 mm

重量：

車両重量：
212 kg
分布荷重（前）：
108 kg
分布荷重（後）：
104 kg
車両総重量：
302 kg
分布荷重（前）：
115 kg
分布荷重（後）：
187 kg

乗車定員：
2 名

性能：

定地燃費（国土交通省届出値）：
23.4 km/L/60 km/h
最小回転半径：
3.3 m
最高出力：
118 kW (160 PS)/11500 r/min
最大トルク：
111 N・m (11.3 kgf・m)/9000 r/min

エンジン：

行程：
4 ストローク
冷却方式：
水冷
動弁機構：
DOHC
配列：
直列
気筒数：
4 気筒
総排気量：
997 cm^3
内径 x 行程：
79.0 × 50.9 mm
圧縮比：
12.0 : 1
エアフィルターエレメント：
湿式ろ紙
クラッチ形式：
湿式 , 多板
変速機形式：
常時噛合式 6 速
始動方式：
セルフ式

車体：

フレーム形式：
ダイヤモンド
キャスター：
24.0 度
トレール：
102 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：
28.0 度
ハンドル切れ角（右）：
28.0 度

燃料：

種類：
無鉛プレミアムガソリン
フューエルタンク容量：
17 L

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
パッド厚さ :
4.5 mm
使用限度 :
0.5 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
パッド厚さ :
6.0 mm
使用限度 :
1.0 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

フロントサスペンション :
種類（前）:
テレスコピック
スプリング :
コイルスプリング
ショックアブソーバー :
オイルダンパー
ホイールトラベル（前）:
120 mm

リヤサスペンション :
種類（後）:
スイングアーム（リンク式）
スプリング :
コイルスプリング
ショックアブソーバー :
ガスオイルダンパー
ホイールトラベル（後）:
120 mm

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120/70ZR17M/C(58W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S20F

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
190/55ZR17M/C(75W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S20R

動力伝達機構 :
1 次減速比 :
1.634 (67/41)
1 速 :
2.600 (39/15)
2 速 :
2.176 (37/17)
3 速 :
1.842 (35/19)
4 速 :
1.578 (30/19)
5 速 :
1.380 (29/21)
6 速 :
1.250 (30/24)
2 次減速比 :
2.687 (43/16)

エレクトリカル :
電圧 :
12V
点火方式 :
TCI

バルブワット数 :
ヘッドライト :
LED
ブレーキ / テールランプ :
LED

方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯 :
LED
メーター灯 :
LED
クルーズコントロール “SET” インジケーターランプ :
LED
クルーズコントロール “ON” インジケーターランプ :
LED
マーカーランプ :
LED
ニュートラルランプ :
LED
方向指示器表示灯 :
LED
油圧・水温警告灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
ABS 警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED
イモビライザーシステム表示灯 :
LED
シフトタイミングインジケーターランプ :
LED
トラクションコントロールシステム表示灯 / 警告灯 :
LED

エンジンオイル :

推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック

エンジンオイル量 :

オイル交換時 :
3.90 L
オイルフィルター取り外し時 :
4.10 L

冷却水容量 :

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路 :
2.25 L

ドライブチェーン :

たわみ量 :
20.0–30.0 mm

ケーブルとレバーの遊び :

スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm
クラッチレバー遊び :
5.0–10.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）:

1 名乗車 :
前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
2 名乗車 :
前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

バッテリー :

バッテリー型式 :
YTZ10S
バッテリー容量 :
12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :
NGK/LMAR9E-J
プラグギャップ :
0.6–0.7 mm

ヒューズ容量：

メイン：
50.0 A
DC ターミナル 1：
2.0 A
ヘッドライト：
10.0 A
ブレーキランプ：
1.0 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
15.0 A
ラジエターファンモーター：
15.0 A
サブラジエターファンモーター：
10.0 A
ハザード：
7.5 A
ABS ECU ヒューズ：
7.5 A
SCU ヒューズ：
7.5 A
フューエルインジェクション：
15.0 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ソレノイド：
10.0 A
バックアップ：
7.5 A
クルーズコントロール：
1.0 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A

ユーザー情報

JAU36643

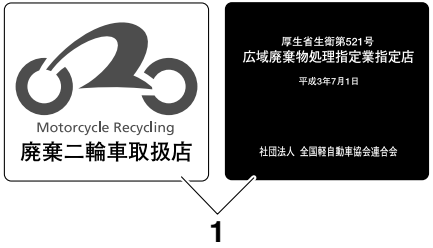
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

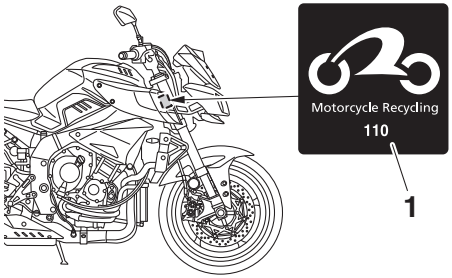
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

MT-10/MT-10SP　サービスマニュアル
部品番号：
QQS-CLT-000-BW8

JAU28457

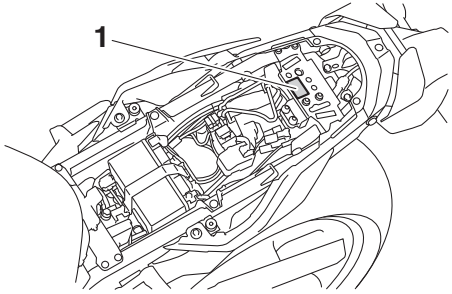
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



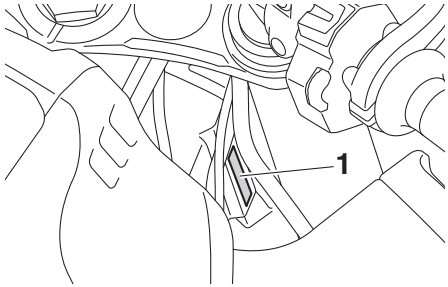
1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
MT-10SP
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号



1. 車台番号

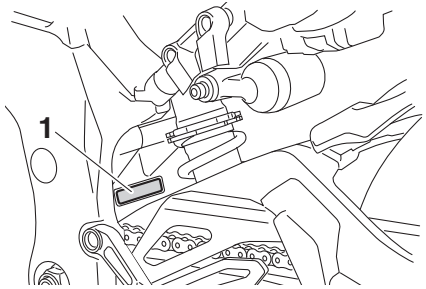
ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

ユーザー情報

JAU50511

原動機番号

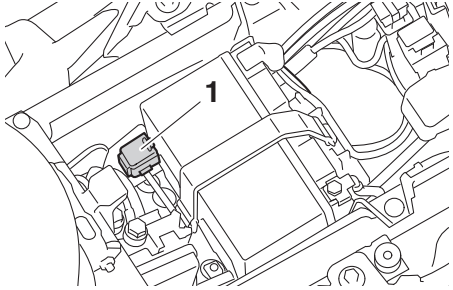


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。
- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。
- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

あ
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 8-3
アルミフレーム、キャスト
ホイールの取り扱い 8-2
アンダーブラケットの取り付け
状態の点検
（ステアリングステム） 7-12

い
ERS 調整 4-16
イグニッションサーキット
カットオフシステム 4-35
イモビライザーシステム 4-2

う
運行において異常が認められた
箇所の点検 7-17

え
ABS 4-27
エアクリーナーエレメントの交換 7-5
エンジンオイル 7-2
エンジン警告灯 4-6
エンジン始動 6-1
エンジンのかかり具合、異音の
点検 7-3

か
環境・住民の方との調和のために 1-6

き
キーの取り扱い 4-1
ギヤチェンジのしかた 6-2

く
クラッチ 7-7
クルーズコントロールシステム 3-3
クルーズコントロールスイッチ 4-5
クルーズコントロール表示灯 4-6

け
警告灯と表示灯 4-6
原動機番号 10-3

こ
故障診断コネクター 10-3

さ
サービスツール 7-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介 10-2
サイドスタンド 4-34

し
シート 4-29
シフトタイミングインジケーター
ランプ 4-7
シフトペダル 4-26
車体各部の給油脂状態の点検 7-12
車台番号 10-2
車両情報 10-2
車両情報の記録に関して 10-3
車両の特徴 3-1
書類入れ 4-30

す
スターター／エンジンストップ
スイッチ 4-4
ステアリングダンパー・
サスペンション警告灯 4-8

せ
セレクトスイッチ 4-5
洗車 8-1

た
タイヤ 7-6

ち
駐車 6-3

て
DC ジャック 4-34
ディスプレイ 4-9
低速、加速の状態の点検 7-4
点検整備の実施 7-1

と
灯火装置および方向指示灯の
点検 7-17
ドライブチェーン 7-10
ドライブチェーンの給油 7-11
トラクションコントロール
システム表示灯 4-7

な
ならし運転 6-3

に
荷掛けフック 4-33
日常点検箇所／点検内容 5-1
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

ね
燃料 4-29

は
ハザードスイッチ 4-5
バックミラー 7-11
バッテリー 7-13
ハンドルスイッチ 4-3

ひ
ヒューズの交換 7-14

索引

ふ

フューエルタンクキャップ 4-28
ブレーキ 6-2
ブレーキ液量の点検 7-9
ブレーキパッドの点検 7-9
ブレーキランプスイッチの点検 7-8
ブレーキレバーの遊び／
　ブレーキペダルの遊び、および
　ブレーキのきき具合の点検 7-8
ブレーキレバーの握り調整 4-33
フロントフォークの調整 4-30

へ

ヘッドライト・Pass/
　LAP スイッチ 4-4
ヘルメットホルダー 4-30

ほ

ホーンスイッチ 4-4
方向指示器スイッチ 4-4
保管のしかた 8-3
歩行者と他の車のために 1-5

め

メインスイッチ 4-2
メニュー画面 4-13

も

モデルラベル 10-2

ゆ

油圧・冷却水温警告灯 4-8

よ

用語集 3-2

り

リヤクッションの調整 4-32

れ

冷却水 7-4

わ

YRC
　（ヤマハライドコントロール） 3-1
YRC 設定 4-15

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-BW8

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2017.02-0.4 ×1
(J)